

れて来たのです。と同時に、フレイベルに共鳴して事を共にする数人の同志がこゝに居ました。私はカイルハウのこの學校を訪ねた時、實に感慨無量でした。小さな學校ですが、割に廣い食堂は此の同志の人々の幾組もの結婚式を挙げたところであり、又各自一家を擧げて始終集つたところなのです。又その窓から見える山あひの共同墓地には、現にそれ等のフレイベル同志の人々が靜かに眠つてゐるのです。私は宵月の光を辿つてその墓に詣りました。

此處でフレイベルは、あの有名な「人の教育」を出版しました。冥想から生れて来る人生及自然に對しての神祕的な見方や、發達に關する觀念が、縦となり横となつてこの本が生れたのです。これは幼稚園の本ではなく、一般に教育の原理を書いた本であります。幼稚園の基本思想がこの本にあるのは云ふまでもありません。

私は此處でフレイベル自身が出版した此の本の初版の一部を探し求めて來ました。よく見て下さい私にとつては大切な寶なのです。

後次第にフレイベルは幼児教育のことを直接に思ふやうになつて來ました。そして遂に、カイルハウから山を越えた、里近いブランケンブルヒに幼稚園を設立したのです。此處は今も日

光と空氣とを豊かに惠まれた高原療養地であります。昔は單純な村であつたと思ひます。今でもこゝに幼稚園の建物がそのまま残つて居ますが、今は小學校になつてゐます。

こゝで施された幼児教育の原理原則は別のお話として、此處でフレイベルは二つのものを殘しました。一つは恩物です。も一つは、遊戯集童話集の編纂です。吾國では「母と子の遊戯」と譯して居るあの本です。「人の教育」もフレイベル獨特の味の出でゐる本ですが、この「母と子の遊戯」はより多く獨創味の溢れてゐる本で、以前は幼稚園研究者は必ず深く研究すべきものとされて居たものです。私はこゝで二冊きりない此の本の初版の中の一冊を、辛うじて譲つて貰つて來ました。これもよく見て下さい私の寶なのです。話が逆になりますが、私がブランケンブルヒに着いたのは、もう町に灯りのついてゐる頃でした。その停車場からホテルへゆく暗い途中で、昔だつたらフレイベルが出迎へて呉れて、遙に東洋から慕ひ訪ねたこの珍客に、固い握手をして呉れたかも知れない。いや、氏自身は來られなくとも、幼稚園の若い保母さん方に提灯をもつて出迎へさせて呉れたかも知れないなど、他愛もない空想を描いて見たりした事でした。

それから、お話がずつと飛んで晩年に、フレイベルはリーベンスタインの方に移りました。此處は温泉場で、夏は貴族的な客の集るところです。こゝの賑やかな部分から一寸離れた所の森の中に、晩年氏の全精神を打ち込んだ幼稚園及保姆養成所があります。ほんとにいゝところでした。

フレイベルの跡を訪ねることはどこも皆興味深いところでしたが、その中でも私にとつて、最も興味あつたのはこゝでした。こゝの家からつまさき上りに森の中を小高い高原に出ました。こゝがあゝの晩年の老先生が、子供と共に歌ひおどつて遊んだところなのです。その老先生の面影が、子供と共に飛んではねてる老先生の様子が、私の胸の中に躍動して來ました。私は恩物の形につくられて居る記念塔の前に立つて、暫くは果てしない追憶に耽りました。當時この温泉場附近の人々はフレイベルをばかおやちと諷名してゐたといふ事ですが、フレイベルのフレイベルたる偉大さは、實に——その教育思想よりも——子供の前にばかおやちとならずに居られなかつた、その尊い眞純なところにあつたのです。今此のお話をしてゐても、あゝの時の私の感慨が、もう一度胸に起つて來ます。併し、それを語つてゐると長くなりますから最後

にフレイベルの墓に詣でた時のことをお話しませう。墓は、シュワイナといふ處にあります。私を案内して呉れた馬車屋さんは十歳位の自分の娘と一緒に馬車にのせて行きました。落葉を踏んで詣でたのですが、あゝの時の有様がいまも尙ほ目に浮んで來ます。私はその女の子に、フレイベルつてどういふ人なのときいて見たのです。するとその娘は言下に「子供のお友達だ」と答へて呉れました。私は何といふ嬉しい答だらうと思ひました。大教育者だ、大先生だとよく云つて呉れなかつたのです。私は今も其の可愛い、女の子の顔を覚えてゐます。

これで、私の思出話はやめにしますが、後世色々の學問が進んで見れば、フレイベルの考の中に誤りのある事も見出されて來ます。従つて今日の幼稚園は決して氏の方法の傳統そのまゝを傳へるものではありません。私はどちらかと云へば、吾國に於てフレイベルを最も批判した一人です。私の眞の考へは、フレイベルを攻撃したのではなく、フレイベルを無批判に受け入れてゐる人の考を批判攻撃した積りなのです。がそれはやがて氏を批判した事にもなるのでせう。吾々はあくまで氏の方法上の弟子とはなれないのです。併し子供といふものに觸れてゆくその偉い天分（教育論でもない、児童心理でもない、無論方法論でもない）に對しては、

幼兒教育小觀

心の底から永久にフレibelを尊敬し尊崇するものです。今日、私がブランケンブルヒから求めて来た此のフレibelの肖像畫を、長く此の幼稚園の保姆室に飾り度いと思つたのも、其の心からです。今日といふ日を忘れないで、皆さんといつしよにフレibelを偲ぶのも其の心からです。私はフレibelの前で云つて來ました。私は随分先生の論を批判しました。しかし、私が、どの位先生の幼稚園精神の尊重者であるかは分つて居て下さいませうと。地下の先生も定めし微笑して居られたでせう。

幼児保育の新目標

幼稚園のことに就きましては、私の浅い研究を以てしましても、實に澤山の問題があるやうに考へられます。他の種類の教育の問題は既にいろ／＼研究を積み重ねてそれ／＼適當なる解決、及び施設を與へられて居りますのに拘らず、幼稚園問題に限りましては、殆ど全部未解決と申しても宜しいやうに思はれます。これは我が國に於てのみではなく、世界に於てもかういふ風な感じがするのであります。今日はわざ／＼東京からお招きを戴きまして、斯く皆様と御一緒になつた事でありませうから、御相談致したい、又伺ひもしたい問題は殆ど盡きないのであります。今日は殊に幼児教育の新しい目標といふ大きな題を差し上げて置きました。是れは幼稚園問題の一部分に過ぎないやうな問題でもありますが、しかしながら又一方には總ての幼児教育の問題に對し、或程度に於ける根本にならうかといふやうな考も持つて居るのであります。暫く此の問題に就て御一緒に研究して見たいと思ひます。

總て我々の致します仕事は、確固たる目標目當を持たなければならぬと云ふことは申すまでもないことであります。ところが竊かに觀まするところに依りますと幼稚園教育に就ては長く此の事に従事せられる方は別としまして、他の方から新らしく此の教育に従事する方や、局外から幼兒教育を御覽になります方々の中には、往々にして只其の教育の對象となります兒童の年齢の小さい爲に、仕事そのものをも比較的軽いことのやうに思はれまして、敢て一個の確定したる目標を立つると云ふやうな事は、殆んど考へるを要しない事のやうに思つて居たりする方も少なくない觀があるのであります。しかし私共の考に依りますと、教育を受けます被教育者の年齢が長じまして、所謂教育の程度が高くなるに従ひましては、之に與へられて居る學者の研究や、或は當局の綿密な指定方針に基いて、其の教育の目標又其の教育の範圍のみならず、毎日従事しまする教案、授業時間の配當の如きに至るまで、殆ど劃一に規定せられて居る事が多いのであります。然るに幼稚園の教育に於きましては、斯る規定が餘程自由になつて居ります。殊に近年は設備の上の規定まで大層自由にされました。此の事は幼稚園教育と云ふものが、他の教育とは全く其性質を異に致して、其の性質上餘程自由を與へられるべき筈のものであるといふところから、左様にされて居るのである事も疑ひなき次第であります。又一方には幼兒教育などに對しては格段なる規定を與へる必要もあるまい、マア善いやうにしたらよろしからうといつた風に、充分明かな意識がない爲ではあるまいかといふ事も竊かに考へられないでもないであります。若しさうならばこれはとんでもない誤りでありまして、未だ教育の分化が充分に分れず、何を教へ何を如何に與ふべきかといふ事に就いて一々巨細の規定のない幼兒教育に就きましては、殊に明確なる根本的の目標を持つといふ事が最も必要であります。若しこれがありませんならば、幼稚園教育は保母の方のお骨折と幼兒の快活なる活動とに依つて、毎日々々或る時間が過ごされるだけで、それが實際何をして居るのか分らないと云ふやうな漠然たることに、自他共に陥るの怖れがあるのであります。故に其の教育に従事しまするところの人々、之を監督しますところの人々、及び之れを傍らより批評し、又は觀て居りますところの人々が、互に明らかなる目標を持ちませんならば、其の熱心や尊敬すべく、其の勞力や實に偉大であるに拘はらず、其の得來る成果といふものは、殆ど區々、若しくは斷片的になりまして、一體幼稚園が何を與へつゝあるかと云ふ事に就いて、人々をして竊かに疑惑を

であるといふところから、左様にされて居るのである事も疑ひなき次第であります。又一方には幼兒教育などに對しては格段なる規定を與へる必要もあるまい、マア善いやうにしたらよろしからうといつた風に、充分明かな意識がない爲ではあるまいかといふ事も竊かに考へられないでもないであります。若しさうならばこれはとんでもない誤りでありまして、未だ教育の分化が充分に分れず、何を教へ何を如何に與ふべきかといふ事に就いて一々巨細の規定のない幼兒教育に就きましては、殊に明確なる根本的の目標を持つといふ事が最も必要であります。若しこれがありませんならば、幼稚園教育は保母の方のお骨折と幼兒の快活なる活動とに依つて、毎日々々或る時間が過ごされるだけで、それが實際何をして居るのか分らないと云ふやうな漠然たることに、自他共に陥るの怖れがあるのであります。故に其の教育に従事しまするところの人々、之を監督しますところの人々、及び之れを傍らより批評し、又は觀て居りますところの人々が、互に明らかなる目標を持ちませんならば、其の熱心や尊敬すべく、其の勞力や實に偉大であるに拘はらず、其の得來る成果といふものは、殆ど區々、若しくは斷片的になりまして、一體幼稚園が何を與へつゝあるかと云ふ事に就いて、人々をして竊かに疑惑を

懐かせるやうな残念な事にもなり兼ねないのであります。

今日お集りの方々に向ひまして、幼稚園教育の必要を説く必要は毛頭之無き事でありませぬ。併し私は常に此の幼稚園教育に熱心だと申される方々に向ひまして、いつも試みに一ツの間を發して見るのであります。即ちあなたの従事して居られる幼稚園教育といふものが有益であり、大切であり、我が國の兒童に多大の貢獻をして居るといふ事は固より論を待ちませぬが、假に我國今日の社會から幼稚園教育が全部取去られましたとしたら、幼稚園教育がある時と果して如何なる違ひを國民全體の上に與へるのでありませうかと。さうしますと多くの方は極めて漠然たる答しかなされないものであります。即ち其の自ら従事して居る仕事は、我國の國民全體の現在及將來にどういふ關係を持つかといふ事に就きましては、其の意識が甚だ漠然として居る人があるのであります。

二

子供を教育致しますにはいろ／＼な目標が立ち得ますし、夫れは又、色々の特別な要求から作られるものであります。第一は其の地方の特別な要求であります。譬へば工業の盛なる土

地でありますならば、其の工業の盛なる土地に於て將來大人となつて都合のよいやうな教育を子供に與へる。其他其の社會の特殊なる要求に基きまして、それぞれ教育の目標が定められるのであります。第二には其の社會の中に於て、又或る家庭の特殊の要求に依つて目標が定められます。私の家庭ではかう云ふ風に育てる、あなたの家庭の子供はどうであるか存じませんが、私の方はかう云ふ目的をもつて居る家庭でありますから、かくの如き教育の目標を立てると、かう云ふことに依つても目標が立てられます。第三には社會及び家庭ともに、特に兒童そのものの個性に基いて教育の目的が定められます。斯くの如き社會、かくの如き家庭に於いてかう云ふ教育を與へたいと思ひますけれども、而も其の子供の個性の如何に従ひまして、教育の目標に多少の變化を造らなければならぬと云ふことが出て參るのであります。斯くの如く教育の目標の細い點になりますと、各人色々でありますが、しかしこれらは、所謂特殊なる教育目標の立て方でありまして、夫等を大きく總括して居りますところの教育の大目標なるものは一國の其の時代に於ける要求と云ふことに基かなければならないのであります。而して我國の兒童に要求する大目標は昔と今とに變りがありません。是れは新目標などとしては論ずるを要しない

のであります。たゞそれが時代の要求に依つて自然變遷致します。今日の時代は何を最も幼児教育に要求するか、是れが所謂新目標の問題のよつて起るところであります。

三

前に幼児教育の全體としての根本的目標は、其の時代の要求に基かなければならぬと云ふ事を申し上げました。然らば今の時代が今の幼稚園に要求して居りますことは、どう云ふ事であらうかと云ふ事を先づ第一に考へる必要があらうと思ひます。素より其れは澤山にあります。併し私の思ひますには、凡そ二つの積極及消極の大要求があると思ふのであります。先づ考へなければならぬ事は現代は人爲的文明が非常に盛である爲に其の爲めに受ける人類の幸福が増加しましたと共に、又一方には幼児の身體及び精神上に非常なる被害を加へて居る事であります。昔の子供が知らなかつた所の危険を今の時代には澤山見出すのであります。殊に神戸大阪京都の如き盛なる大都會の兒童に於きましては、其の事の最も著しきをみるのであります。此の頃の子供の研究中、其の土地の境遇の種類に依つて研究する事が新しい題目となりまして、都會の子供、或は田舎の子供、或は郊外の子供といふやうな問題を掲げ、之れに依つて研

究して居る人があります。殊に此の大都會に於ける子供は如何なる特別の事情の下に生活して居るかと云ふ事を調べますのは、最も必要な事として研究されて居るのであります。實は私は五年ばかり前に、大阪へ來ました時に、此問題を著しく感じまして、それ以來少々研究致しました結果、我國の都會の子供が彼の西洋に於ける都會の子供の受けて居る種々の損害に、漸次近づきつゝあるといふ事を非常に悲しんで居るものであります。即ち都會に住つて居ります人は、田舎に住んで居ります人よりも多くの生活上の不利を與へられ易く、是れがいろ／＼の方面から子供に影響して居ります、又假りに生活上直接の不利を免れたとしたところで、光線の缺乏、又は騒しい四圍の音響のために、子供は非常な妨害をされて居ります。夫れは如何なる所に一番大いく損害されて居るかと云へば、子供の身體も害されて居りませうが、私は子供の神経系統が受くる被害に就て最も恐ろしく感ずるのであります。此の意味に於きまして現代の子供は都會が與へる神経系統上の迫害に堪へる、即ち之と戦つて之れに堪へてゆくだけの準備をしなければならぬといふことが、新しい時代の必要になつてくるのであります。是れは千五百年前或は三百年前、或は百年前、或は五十年前の子供は多く知らなかつた所の時代の新

要求であります。

もう一つは世潮が段々激烈になつて参りますと、世に生き甲斐のある生涯をして行かうと云ふには、いよ／＼強い實行力を必要とする時代になつて來たのであります。此の事は必ずしも幼児教育に關した事のみでありませぬから詳しく説明する必要はないと思ひますが、併しながら今日の社會に於きましては、特別な學者的生活とか詩人的生活とかを除いて、一般普通の人々としては、兎に角く努力の生活、即ち實行の生活が非常に必要なる時代になつて來て居るのであります。さうして此の實行、此の奮闘、此の精勵の生活、所謂精力主義と云ひますか、總ての艱難に打克つて疲れず所信と使命とを實行して行き得ると云ふことは、是非とも其の人の神経系統の力にまたなければならぬのであります。

即ち一方からは此の時代が幼児の神経系統を害する、一方からは時代の生活が益々強健なる神経系統の力を要求する。其の消極、積極表裏二面の要求が即ち今日の時代の要求なのであります。果して然りとすれば、此の時代に緊切に適合した幼児教育の目標は、幼児の知識を進むると云ふ事も素より必要であり、幼児の道德的品性を高めると云ふ事は尙一層必要であります。

けれども、殊に今日の時代の特殊なる要求として、幼児の神経系統の教育、換言すれば幼児の神経系統の保護とその鍛錬とが、新しい目標でなければならぬと考へるのであります。

四

昔ソクラテスが言ひましたと云ふ言葉の中に「自分の知つて居ること、其の知つて居ることを爲し能ふこと」が一致しなければならぬ」といふ事があるやうであります。此の言葉は更に現代的の解釋に於て新しい意味を有して居るのであります。マシウアーノルドでありますか、「人間の生活の三分の一は考へる事で、三分の二は之を行ふ事である」と申しました。我々は考へずして、只行つて居る事は固より出來ないのでありますけれども、考へてばかり居て行ふことのない人は、遂に此の世の中の劣者となり、敗北者となつて終るのであります。教育がよく子供の感情、智能の働きを練磨しまして、幸に其の子供は美しき感情と、豊富なる知識とを以て此の世の中に出されましても、若しも此の感情に基き、其の知識に基いて之を實行する所の力がなかつたならば、其の人は教育の結果、誠に立派な、誠に賢明な人にはなまされただけども、併し未だ物足りない人として一生を終らなければならぬのであります。此頃アメリ

カofスタンレーホール氏の言葉の中に、「人間の性格は、其の人の活動能力の總和である」と申して居ります。これは冷靜な科學的定義としては必ずしも完全とは云へないかも知れませんが、併し此の時代の要求を目の前に置き、之れを非常に強く感じて、自分の教へて居る子供がかくの如き時代に出て行くのであるといふ將來を見越して考へますと、スタンレーホール氏の所謂活動能力の總和が人の品性であるといふやうな定義を、我々も重んじたくなるのであります。而してその活動能力、即ち世の中に立つて強い力を以て事をするといふことは、もう一つ奥へ入つて考へると、其の人の筋肉の力、神経の力であります。そこでスタンレーホール氏が近世の道德としては、筋肉の道德と、筋肉の不道德、とがあると申して居りますのは、最も意味の深い言葉と思ふのであります。感情の上の道德、知識の上の道德があるやうな工合に、又筋肉の道德と、筋肉の不道德とがある譯であります。總ての困難に堪へ、且つ又自分の感情なり、自分の知識なりに従つて、我が爲すべきことを勇氣を以てなし得るといふことは、其の人の神経の強さであります。即ち神経の道德の偉大なる人であります。常に疲れ、常に衰へ、常に憔悴して居りまして、何事にも直ぐ飽いてしまひ、總てのことに活潑なる精神力を發揮する

ことの出来ない人は、たとへ其の人の感情の中にはどんな麗はしい事を思つて居るかも知れないとしても、これは筋肉上の不道德であるといふことをスタンレーホールが申して居るのであります。これは現代の要求に對する一種の考へ方としては、實に痛快なる思想であると思ふのであります。

そこで私共が教へます子供、私共が愛して居りますところの子供は、之を伶俐な者にもしたい。麗はしい感情の者にもしたい。素より身體の健康な者にもしたい。併し私は先づ第一にその神経の強健な者にもしたいと云ふことを感ずるのであります。即ち私の今日演題として掲げました、「幼兒保育の新目標」は神経の健全強健なる子供を造るといふことに外ならぬのであります。一體近來は神経衰弱であるとか、ヒステリーであるとか、ヒコボンテリーであるとか、或は何だかクヨク泣いて居る、或は蒼ざめた顔をして悄然として市中を歩いて居る、然ふ云ふことが當世的、現代的である。其の人が肥滿して、眞黒な顔をして、そうして忍耐強く働いて居ると云ふことは野蠻的である。弱々しいことが現代的で強さうなのは現代的でないと思ふやうな者がひろがりまして、その爲めに神経系統の衰弱から生ずる所の社會的出來ごと及

び犯罪事件が澤山に殖えて来て居るのであります。又精神病者の増加と云ふことが現代の著しき現象になつて居ります。又最も憂ふべきこととして、我が國に未だ幸にさう云ふ事がありませんけれども、歐米殊にフランス等に於きましては少年自殺者が段々増加して来て居ります。青年にも達しない子供が、ちよつと叱られたとか、ちよつと試験に落第したとか、或はちよつと何か失策をしたとか云ふやうなことに因つて、其の失敗の不面目、其の悲嘆の苦に、打勝つことが出来ずして、直ぐ自殺してしまふやうな精神薄弱なる者が増して居るのであります。外圍の刺戟に對して聊かも持ちこたへる事の出来ない、さう云ふ神経系統の弱々しき子供が、海の彼方には次第に殖えて来て居ると云ふ事を聞くのであります。さうして其の原因となるべき事が我國に於きましても、矢張り次第に殖えて來るとしきすれば、我國の子供も亦遂にはそんなことにまで追々進んで行くのではなからうか。これは考へるさへ甚だ厭な事でありませぬ。けれども私共は密かに心配せねばならないと思つて居るのであります。實に今では神経系統の衰弱が文明人の當り前の事のやうになつて居ります。即ち個人的神経衰弱と云ふことは通り過ぎてしまつて、所謂社會的神経衰弱と云ふやうな事になつて居ります。之れは其の一人々々を

責めるよりも、時代の弊と見るべきものかも知れません。

ところで現代の文明が益々然う云ふ侵害を與へますに拘はらず、教育の目標は昔の儘にして居つて、それに対する何等の工夫も與へなかつたならば、總ての人は滔々として神経衰弱になつてしまふのであります。是れは國家の上に非常なる憂ふべき事と云はねばなりません。而して此時に於て我幼稚園の教育なるものが其の潮流に對して、何等の考慮をもなさないとするならば、其の職責に對して甚だすまない事になるのであります。前に幼稚園教育が今日我國からとられたらば、何うなるであらうかと云ふ問を提出しましたが、私の希ふところに依りますれば、幼稚園の教育があるが爲に、我國民の神経系統が其の適當の年齢に於て擁護され又強められて居るのだと云ふ事を、五年十年の後、又其の將來に於て、ます／＼云ひもし、言はれもしたいと思ふのであります。素より神経の教育と云ふことは幼兒教育のみに限つては居りません。小學校時代に於きましても中學校時代に於きましても、殊に高等女學校時代に於きましても、神経系統教育と云ふ事は非常に必要でありますが、併しそれ等時代の教育は神経系統教育以外に多くの色々な役目を負はされて居ります。いろ／＼な事も教へなければなりません。國

民として、又一個人としての生活上の技倆を興へると云ふやうな色々な要求もあるのでありますが、幼稚園教育に於ては、他の事は比較的何も致しませんでも社會が之れを責めませんし、充分に此の神経系統の教育に専心する事が出来るのであります。又一方に幼稚園時代に於て幼児の知識を開発する事が出来ませんが、これは後になつて取返す事が出来ます。併しながら神経系統の健全、不健全と云ふ事は、丁度この幼稚園時代に於いて最も其大切なる時期に在るのであります。此時に其の神経系統を害されたものは、成長の後に至つて恢復が甚だ六つかしいのであります。是に於て私は殊に幼稚園教育に於て神経系統の事を考へて戴きたいと希望するのであります。

五

ところで此目標に對して施さるべき實際問題に就ては、色々な事が考へられなければなりません。併しそれは大層細い部分的問題に涉りますし、積極的方法としては研究が未だ充分に行き届いて居ないのでありますから、今日は、以上申して來ましたやうな見地を以て、今の幼稚園を観察した時に、何う云ふ感じを持つかと云ふことを側面的に御参考として申し述べて置

かうと思ふのであります。

今日の幼稚園教育は色々改善も致されて居りますが、尙ほ私共のいつも甚だ不思議と思ひます事は、幼稚園教育の仕事が昔のまゝに矢張り室内に在る事でありませぬ。幼児を教育する場所と云ふものは屋根の下、壁の中でなければならぬと云ふ事は、フレイベルは勿論誰も然らぬ云ふことを申した人はありません。是れが小學校以上の教育でありますならば、野外では出来ない、色々な設備も要るし、又注意集注の爲などから何うしても壁が必要であり、屋根が必要であり、教室といふものが必要でありませぬが、幼児教育に於ては決して然らぬ云ふ事はないのであります。而も幼児教育が進歩したに拘はらず、其の中心が矢張り壁の中に引込んで居ると云ふ事は、甚だ奇異な話なのであります。多數の子供を室内に置きますことに因つて生ずる弊害は澤山に在りますが、今日のお話の見地から考へて見ますと、第一に酸素の缺乏と云ふ事が如何に子供の神経系統の上に害を興へるか云ふ問題を考へなければならぬ。悪い空氣の中に子供を置くことの不可なる事は、昔から知れきつた話であります。併し何故いかぬかと云へば、肺が悪くなる、呼吸器が悪くなる、即ち身體の健康を害すると云ふ點からのみいつも論ぜ

られて居るのであります。これは確かに事實であります。併し吾々といたしては尙ほ他の事を考へなければなりませんのであります。御承知の如く酸素が人間に與へまする損害の一番著しい所は脳の皮質であります。即ち人間の精神的生活中の中枢であります所の大脳の皮質が最も偉大なる害を被るのであります。マーセツトの研究に依りますと、酸素の缺乏は人間の意志の虚弱を來すと言つて居ります。即ち酸素の缺乏に依りて肺が害される、心臟が害される、と云ふ點だけに心配を留めて置くのは、我々に取つて甚だ不充分の注意でありまして、夫れより進んで意志の中樞に害を受けると云ふことは、我々に向つて近頃の學問が教へて呉れる怖るべき事實であります。果して然らば何を苦しんでか、酸素の澤山に在りまする室外に於て子供を保育せずして、子供を室内に押込めるのでありますか。或は壁の中に而も天井の低い所へ押込めて置くのでありますか。昔の人は子供が悪い事をするると其の頭腦を打殴りました。今の人は子供の頭を打つと馬鹿になるから打つてはいけなと云ふ事は知つて居りますが、室内の教育なるものは、恰も酸素の缺乏を以て子供の頭腦を打殴つて居ると云つても宜いのであります。

第二は机の保育であります。殊に手技手藝の保育であります。私共が幼稚園を拜見に出る

と、いつも觀せて下さるのは是れであります。又幼稚園の成績品を陳列すると云へば、三歳の子供がこんな細いことを仕ましたとか、こんな器用なことを仕ましたとか、さう云ふものを誇つて居られるのであります。併し此事が幼兒の神経系統に如何なる關係を持つて居るかとか考へますると、又一つ大きい心配を我々に與ふるのであります。第一は幼稚園時期の子供をして長い時間の間じつと座らせて置くと云ふ弊害であります。これは何も幼稚園時期に限りません。皆様に対しても長いお話をして餘り長く坐らせて置くと云ふ事は非常にいけないことであらうと思ひます。が、幼稚園時期の子供に對しては、自然的生理的に害の甚だしい事があります。ハノツクと云ふ人は五歳から七歳までの年齢の子供に就て面白い研究を致しました。子供の身體がどれだけ靜かに立つ事が出来るかといふ事を實驗的に精密に器械を以て研究致しました。ところが其の結果五歳から七歳の子供に於ては、中樞の支配を以て長く靜止する事は不可能であるといつてゐます。更に同じ研究をカーチスと云ふ人がもつと細かに致しました。其の結果五歳以下の子供は平均三十秒以上靜止する事が困難である事を見出しました。私は初め此の報告を讀みました時に、三十秒と云ふ秒の字は餘り變である、セコンドと云ふ字が使つてありま

したが此のセコンドと云ふ事は私も知つて居りましたけれども、もう一度辭書を引いて見た程でありました。幾ら五歳以下の子供でありましたところで、三十秒以下とは餘りに劇しいことのやうに思ひましたが、カーチスの實驗は之を證明して居るのであります。五歳以上十歳ぐらゐの子供になりましたも一分乃至一分半、それ以上の靜止は困難だと申してあります。素よりは是れは極く細い實驗上の靜止で此事を以て直ぐに幼兒を三十秒以上は座はらせられないと云ふのではありません。併し大人の標準を以て子供に靜止を強いる事が如何に子供の自然性に反して居るかと云ふ事は凡そ想像がつくのであります。

更に手技のいろ／＼な仕事と云ふものは、多く指先を用ひてする仕事であります。譬へば針を通すにしても小さな穴をたどつて通すのでなか／＼六つかしい。併し此の指先を以て子供が精密なる仕事をする事が困難であると云ふ事は又實驗的にいろ／＼證明せられてゐるのであります。矢張りハノツクが研究しました。針を通しましたり、或は器械を速かに指先で打ちましたり、然ういふやうな手先でする細い仕事を研究して、斯う云ふ結論に達して居ります。身體の運動の發達は……殊にハノツクは手でやりましたが、先づ肩の筋肉の運動が一番早く發

達する、其次は腕である其次が腕である其の次が手である。手の中でも人差指は比較的早く發達するけれども指先の發達と云ふことは非常に後のことである。普通の五歳から六歳ぐらゐの子供に於て、如何に其の子供が優良なる子供であつても、普通の状態は丁度精神病者にある運動の失調に似たものである。或は舞踏病或は麻痺性の病氣に似たものである。即ちそれ以上の精密な仕事を要求するのは不自然であると云ふ事を申して居ります。我々が實際に之れを應用する時に於ては又其所に種々の斟酌もしなければなりませんけれども、併し餘り細かい正確なる仕事を子供に強ひるといふ事は、生理的發達上不自然であります。即ち是れを大人の標準を以て強ひると云ふことは、最も亂暴な話であるといふ事が、之にて直ちに見當が着くのであります。一體近來は小學教育に於ける手工教育に對してさへも種々な點の議論が出て居ります。譬へば手工教育は腕から先だけの筋肉を使つて少しも身體全體の筋肉を使はない、殊に手工の弊は腰から下の足部の筋肉を度外視して居ると云ふやうなことを擧げて論ぜられることがあります。況んや幼稚園教育に於て或長い時間の間、殊に先生のお上手な奨励法に依りまして、子供の自然に反し居ることを敢てしなければならぬやうにされて居るのは、實に近世教育の進

歩に於ける矛盾だと云はなければなりません。元來運動の筋肉の發達は基礎的の方からして段々基礎的でない細部的のものに向つて進んで行く、即ち胴とか肩とか云ふやうな所の大きな筋肉の發達から、段々手先、或は足の指先、或は顔面の筋肉と云ふやうな小さい方の部分に發達して行くのであります。然るに此の順序を無視して、我々大人の標準を以て、今日吾々が物事をするのは手先である、手先を器用にしなければならぬ、何でも手を發達させなければならぬ、何でも手を發達させなければならぬ、併しながら子供にとつて見ましては、往々不自然な要求になるのであります。今日の幼稚園教育に就きまして斯う云ふ方面から批評して見ますれば、尙ほ色々な事があらうと思ひますが、たゞ、以上二三の事を考へて見ましても、今我々の爲して居りまする幼稚園の教育法といふものは、子供の感覺を發達させ、子供の手を器用にさせると云ふやうな事が中々重く見られて居ります。併しながら神経系統の擁護、及び其の養成と云ふやうな新しい目標に對しては、是れが決して適當のものではない。自ら其の方法に變更を見なければならぬと云ふ事を考へられるのであります。

六

そこで是等の缺點を救つて、さうして此の新らしい目標に合ふやうにしますには、何うしても戸外に重きを置かれて來なければならぬのであります。御承知のやうに教育は屋根の下壁の中にあるものといふ一の定義から離れまして、野原でも出来るものである、森林でも出来るものである、雨が降れば初めて屋根が要ると云ふやうに、今までの教室や保育室本位のものとは異つたことになつて來なければなりません。斯ることは小學教育としては現に此頃の新しい傾向でありまして、即ち野外學校でありますとか、森林學校でありますとか云ふものは、皆此の新らしい考への上に立つものであります。初めて千九百六年でありましたか、伯林の近郊のシャロットテンブルグの森林の中に森林學校が出来まして以來、英吉利の方でも、亞米利加の方でも、然う云ふ學校が出来るやうになりました。殊に亞米利加の或學校の如きは、其の戶外學校を開かうとしますのに、既に土地がない爲に、在來の學校の屋根の上の一の戶外教室といふものを造つて居るくらゐであります。私は寫眞の繪で見たのでありますが、其の苦心に驚いたのであります。理窟から言つても、實際から言つても斯くの如き趨勢に對しまして、我々

が現在の幼稚園の建物を以て保育の中心とし、之に附屬して居る遊び場はチョット息抜きであると思ふに考へられて居ると云ふ事は、非常な間違ひであらうと思ふのであります。但し外國に於ける郊外學校、森林學校のときは多くは氣管支或は神経系統の弱い子供、或は既に病氣になつて居りまする子供の爲に設けられて居るのでありますけれども、今申し上げましたやうな有様から申しますならば、先づ健全なる兒童を然う云ふ所で保育して行くこと云ふことが都會の幼稚園に於ては殊に必要であると云はなければなりません。

次に考へて見なければならぬのは、今日まで我々が金科玉條として居りましたところの、一々物差で測つて何寸四方でなければ可かぬとか、或ひはどのくらゐの重さでなければ可かぬとか云ふやうにして拵へたところの人為的保育材料、即ち彼の恩物と云ふものであります。一體此の恩物と云ふものは茲に更めて申すまでもありません、フレイベル先生の深い考へから案出せられたものであります。其精神の貴重なると共に先生は非常な厄介なものを我々に遺して呉れたものであります。即ち前に申し述べましたやうな室内の仕事の弊も多くは、此の恩物が災をして居ります。恩物は原語でガーベと申します。即ち天から與へられた物といふのであ

ります。併し眞の恩物とは、天が與へて呉れて居る所の樹木、草、石、砂、土、水、其他の澤山の自然物であります。態々差物師に頼みまして、寸法が何うとか斯うとかと云ふ、そんな小さい恩物を用ひなければ、恩物ではないかのやうに考へて居りますのは、非常な間違ひであります。フレイベルが今日尙ほ居りまして、新しい兒童研究の結果を知られましたならば、必ずや此の恩物主義は撤回されるであらうと思ふのであります。然らば野外に出しまして、酸素の供給を充分にして自由に自然物を以て遊ばせ、さうして末端の神経の作用を後にして、足、腰、肩といふやうな大きな筋肉の使用を先づ以てさせることが幼兒保育の新目標に合つたことなのであります。都會の子供は天が本當に與へて呉れまする恩物、即ち自然物に對して如何に貧弱な智識を持つて居るかと思ふ事は實に驚くべき事でありませぬ。彼の新入兒童の觀念調査を一番初めにされたのは伯林の子供でありましたが、其の伯林の都會の子供にして、既に小學校に這入るといふ年齢に達しながら、森を知つて居るものが、百人中三十六パーセントの割合であります。十人の中に三人位の割合であります。山を知つて居る者が三十二人、日の出を見た者は三十一人、それから露と云ふものを知つて居る者が僅かに二十三パーセントであります。

す。其他所々で斯う云ふ風な研究をして居る學者がありまして、殊にスタンレーホール氏の如きは、小學校入學の子供が如何に自然の智識に就いて缺けて居るか、殊に都會兒童が之に缺けて居るかと云ふ事を、極論して居ります。斯くの如く自然の事に就て智識が少いと云ふのは何も樹木や草花の智識がないと云ふばかりではありません。もつと大きく考へれば兒童が如何にも自然に接する機會が少いと云ふ憂ふべき事實の證明になるのであります。此事は西洋の報告に依つて見て居たのであります。京都大學の野上君が京都の小校學に入學する子供に就て調べました處に依りましても樹の名は平均一人につき一種九分であつた、二種以上の樹の名も知つて居る者はないのであります。草の名に至りましては一種までゆかない。平均一人につき九分二厘であります。此の事は比較的自然の多い都會と云はれて居る京都に於て、斯くの如き有様としますならば、大阪の如き神戸の如きは大體想像が出来るのであります。實に戶外保育、野外保育、自然的保育の急務は斯る方面からも要求せらるゝのであります。是れは歐洲に於ては段々氣附かれて居ることで、彼の有名な伯林のベスタロツチ・フレーベル・ハウスの現況を聞いて見ますと、室内の作業と云ふものは段々減じまして、著しき程度に於て室外と云ふ事が、

重んぜられて居ります。園門に牛が飼つてありまして子供の前で其の牛の乳を搾る、或は畑地を耕し、草花を植ゑる。然う云ふ野外的、自然的保育が盛んに採用せられて居るやうであります。これは我國の都會幼稚園に於て現今最も注意すべき點と思ふのであります。

もう一つ終りに申上げて置きたいと思ひます事は、總て子供に對する色々な事は御婦人の力を藉りなければならぬと云ふ事が、此の神經教育と如何なる關係を有するかと云ふ點であります。私の思ふところを露骨に申し上げますと、御婦人が保育をして下さることは百の利益、千の利益、萬の利益と共に、只一つ起り易い缺點が有り得るのであります。此事は今日御婦人のお集りの所に於きまして甚だ失禮なやうな言ひ方ではありますが、事實として子供の利益の爲めに一つ苦言としてお聴取を願つて置きたいのであります。一體現代の文教がフェミニズム——女性式とでも譯しますか、或は意譯してやさし主義とでも申しますか、然ふ云ふ風な傾きを有すると云ふことは、社會一般の風かも知れませぬが、是れは少し考ふべきことであります。勿論其の傾向に至極良い點も澤山にありますが、私の今日申し上げました時代の要求に對してどうも是ればかりではならないと思ふのであります。幼稚園教育法の一の弊害として、小

さい筋肉、小さい神経を使用するといふ事に自然傾いて来て、相撲は取らない、競走はしない、木登りはさせない、餘り走つては危いと云つて、手を引いてそろそろ歩く、植物を弄るといつても、大きな木を弄らない、只小さい草や花を弄る。素より物事は大きな物でなければ利益がないと云ふ事はありません。けれども兎に角く然う云ふやさしい細かいことにのみ傾き易いと云ふ事は、是れ又今日の一つの缺點であると言はなければなりませんまい。

七

幼稚園教育法が今日色々な人から往々にして攻撃されたりして居ります。それも多くは素人の言ふことだと思つて聞き流して置いても宜いことでもあります。それ等の批難の中で幼児の精神疲労問題に就ての論議は、誠に幼稚園教育の中心に觸れて来る論であります。三歳四歳の子供をあゝして大勢保育して居ることは、他の利益が百あつても、其の幼児の神経に無理な疲労を一つでも與へたならば、其の百の利益は皆失はれてしまふのであります。幼稚園教育者自身は神経系統の教育と云ふことに就て、未だ餘り意を注がない間に外部から段々此の種の心配を惹いて居るのであります。即ち神経系統の教育に對して適當なる方法を施し得ましたなら

ば、始めて時代の、要求に適合するところの、我國民生活の將來に大影響を有し得るところの、新らしい幼稚園の存在甲斐が出るのであります。大層長いお話を致しましたが、此問題は、是非深く考へて戴きたいのであります。(これは二十年近い以前に神戸に於て試みた講演である。幼稚園教育に關する私の最初の講演であるが、今も尙も此の考へを捨てない。のみならず、今日もまだ、同じ注意を必要とするところの多くあるのは、我國幼児教育のために遺憾である。著者)

幼児教育の特色

元來我國は、教育の方面に於ては、何う云ふわけか、外國の思潮に動かされることが急で、教育上の思潮が始終いろ／＼に動搖して居るやうであるが、その間に在つて、幼児保育の方面だけは可なり長い間、議論もなければ變化もないといふ風に、謂はゞ呑氣な長夜の眠をして居たのでありました。それが近來になつて急に忙しく目を醒して來たのである。其の爲にいろ／＼の論や説が出た。之れは實に結構な大いに喜ぶべきことであつて、茲に初めて進歩があるのである。或は新しい説に動かされては可ん、いろ／＼な考に動搖しては可けないと云ふことは老成大家の御説であるけれども、併し何か深く徹底した結論に達しやうとするには、當分の間は多少の動搖は免れないことである。一方の思ふ所に突進して見る。すると今度は又それとまるで矛盾して居るやうな、反對の方面に曲折して行くと云ふやうなことは、研究の途中としては當然起ることである。小さく纏りのついた、いゝ加減な結論に基いた保育には、吾々は永い間飽き／＼して居たのである。近來の如く活潑な研究が、續々出ると云ふことは、やがて

是が本當の大なる結論に落付く所の途筋であらうと、私は確信し且つ期待して居るのである。何うか三市保育會、或は全國の保育會の方々、まだ十年や二十年、結論に達しないからと少しも構はないのでありますからして、存分いろ／＼な方面に意見を選ばれ、又主張の旗印もいろ／＼に立てられて、御遠慮なしに互に研究せらるゝことを希望するのであります。

併しながら是は研究である。吾々がいろ／＼な新しい教育主義に接して、新しい學説を受取つて、それに向つて殆ど極端なる程の意見を構成して見る。而して何處まで此意見が徹底するのであるか深く穿鑿して見るといふのが、是れ即ち研究の態度である。研究の態度は何處までも最も自由なるべきである。併し其の自由なる研究の中にも、其の問題の特色として一定の大方針はあるものだらうと思ふ。勿論此の大方針も、もとは研究の結果に基くもので、どこからも獨斷的に與へられるものではないが、何か大體の方針となる處のものがなくては、個々の研究が極めて亂雑に不統一になつて仕舞つて、遂に其の未の爲に、其の大本を忘れるといふ様な弊が起りはしないかと思はれる。即ち幼稚園教育にはいろ／＼の主義もあり、方法もあるけれども、それが幼稚園教育である限りは脱越することの出来ない一定の範圍がある筈だと思ふの

である。私は今日、そのことに就て申上げて見たいと思ふのである。但し、斯ういふことは餘り細かになると、却つて大方針としての自由なり餘地なりを失ふ様になるから、成るべく大體に止まつて、しかも基本となるものでなければならぬと思ふ。又、私の今日申し上げることは、何も保育の流義を一定にきめて仕舞ふといふものではない。寧ろ、あらゆる保育の方法を包含し居る筈のものである。たゞ幼児教育が幼児教育である以上、斯ういふ方針のもとに考究せらるべきものだといふことをあらはすものであります。

私は他の教育に比較して、幼稚園教育の特色とする處が四つあると考へて居ります。其第一は幼稚園の教育は——他の教育に於ても、別に變つたことはないかも知れないが、——特に幼兒、即ち被教育者の自發的生活を尊重しなければならぬといふことである。此事たる決して新しい問題ではない。既に幼稚園を初めたフレイベルが此點に注目したのである。のみならず其れ以來幼兒教育に就いて、いろ／＼講究されて居るが、如何なる學說、如何なる新主義、如何なる新しい試みが行はれても、幼兒の自發的生活を度外に置いて保育の方針を立てるといふこ

とは、昔も今日も無いのである。即ち別に改めて申上げる程のことはないかも知れないが、幼兒教育に幼兒の自發的生活を尊重すると云ふ意味は、私の考へでは二つの方面がある様に考へるのである。其の一つは保育の方法の形式の方面であつて、保育を有効に行ふためには自發的狀態を利用した方がよいといふのである。無理に注文するのではなく、成るべく幼兒を自發狀態に置いて、それに向つて吾々の與へんとする所を巧く仕向けて行くと云ふのである。第二の考へは自發的生活を教育の手段の上に用ゆるのみでなく、幼兒の自發的生活其物が内容的に非常に大切なものであると云ふのである。此二つの點は極めて微細なやうであるけれども、充分明かにして置く必要のある大切な點ではないかと思ふ。今日いろ／＼な研究の教へる所に依れば、幼兒の自發的生活の中に、吾々が之を適當に培養することに依つて、いろ／＼立派なものに育て上げ得る所の、豊かな内容を有して居ると云ふことが益々明かになるのである。即ち幼兒の自發的生活の中には、形が自發的であると云ふ以外に、充實した内容を有して居ることを知るのである。此點を吾々が利用してゆくと云ふと、自發に任せていろ／＼な豊富な教育をして行くことが出来るのである。之れは方法的の問題よりもモウ少し中身のある、深い意味のも

のであると思ふ。先年來此の自發とか自由とか云ふことが、大變に吾々を刺激して、束縛的、或は干渉的な保育方法に對して、成るべく自然なる自發に従ふ教育をしなければならんと云ふことが一の傾向として行はれるやうになつたが、それが往々前に述べた方法の上の意味のみに限られて、幼兒の自發的生活に含るゝ内容方面については餘り考へられて居ない觀のあるのが、未だ不満足に思はれざるを得ないのである。即ち大切なる其の自發的生活の内容に對しては、吾々の注意が未だ充分でないと思ふ感じを持つのである。若し果して然らば幼兒の自發的生活と云ふことを唯だ非干渉、放任と云ふやうな方法上のこと、從つて消極的意味に解釋して、満足するだけでは足りないのである。從つて唯だ干渉せず幼兒を放任して置くと云ふ風なことは、決して幼兒の自發性を尊重すると云ふ教育の眞骨髓に達して居るものではないのであつて、自發的生活の内容を尊重し、それを利用して、積極的に、幼兒を教育して行くと云ふことも、自發的といふことの極めて重要な一面であり、吾々に取つて餘程重大なる仕事であるといふことを感じなければならぬのであります。

次にこの問題を方法的な方面へ移して行くと云ふと、幼兒の自發的生活の内容を尊重し、之れを充分發揮せしむる爲には、幼兒をして充分相互的生活をさせるのが、最も適當になつて來る。元來相互的といふことは幼兒教育の手段として、最も適當の途ではないかと思ふ。他の教育では大人の方から教へなければならんことが澤山あるが、幼兒教育に於ては相互的生活をしてそれに依つて互に持つて居る所の、自發性の内容に自由なる發揮の機會を與へ、之を鍛錬し發達せしめて行くと云ふことは、最も適當ではないかと思ふのである。是は普通の教育では大分困難なことであつて、少くも之を教育と云ふ仕事の全部と考へてやるといふことは實に六づかしいことである。或は皆を集めて一齊に教へなければならんこともあり、或は一人一人緩り話をした方が可いこともある。斯う云ふことは殊に教授をする側の教育になると、免れないことであつて、相互的の教育を以て、教育の全部とすることは逆も出來ないことである。しかしながら、幼兒教育に於ては、今申上げましたやうに、特別に是れだけのことを與へなければならんと云ふ教材の様なものはなく、誰だ幼兒が現してくる所の自發的生活の内容を、一つでもよいから徒らに看過しないやうにするのが、幼兒保育上の仕事であるとしたならば、幼兒を

して相互的の生活をせしめて、互に持つて居る所の自發的内容を鍛錬し、活動せしめて行く
と云ふやうな機會を充分に與へることが出來ると思ふ。但し幼稚園の教育は元來個人的のもの
だと云ふ論がある。幼稚園の教育で、大勢の幼兒を寄せ集めて、集合的訓練をする様ことは
早過ぎる。幼稚園の教育は要するに個人的のものであつて、幼兒一人一人の自由な個性を尊重
するに在ると云ふ論がある。併し之と相互主義教育法とは決して反對も矛盾もしないのであ
る。元來幼稚園は個人的の教育をするものであると云はれる意味は、如何う云ふことかと言ふ
と、即ち一人々々の個性を没却せず、殊に一個の標準を以て劃一して仕舞ふことをしない様にと
いふことである。即ち個人々々の特性を發揮せしむると云ふことに心を用ゐよといふのです。
假令ば一の仕事をして居る時に、一人が手を舉げれば皆が手を舉げる。號令を掛ければ皆が揃
ふと云ふやうに、無暗に規律的教育をすることはいらんといふのである。處で斯ういふ風に其
個人々々の持つて居ります所の個性を、充分に自由に發揮せしむる爲めには、教師中心よりは
相互中心が適當だといふことは明らかなことである。個人的特性の發揮は、外の言葉に依つて
言へば、先程の自發的生活と云ふことに歸着してくる。自發的生活を眞に自發的ならしむるに

は、教師一人々々子供を引張つて行くと云ふことのみでは出來ない。どうしても同じ様なお互
同志の生活の間に、自然に出來てゆくのである。此事は今日の家庭に於ても、充分に徹底して
居ない。幼稚園へお願すると云ふことは、矢張り先生にかゝりつきりで、面倒を見て頂き度いと
云ふ様な考へで居る。幼稚園へ行つて見た所が、先生が他所の子供は放つて置いて、家の子供
だけの手を引いて遊んで居て下さつた。家の子供だけは實に仕合せである。保育料を三人前位
出してもよいから何うか始終斯ういふ様にして頂き度い。といふ様な考への人が多い。幼稚園
の先生達には然う云ふ馬鹿々々しい考へを持つて居る方はないが、如何にして幼兒の相互生活
を充分に發揮させようかといふことに就いては、まだ研究が充分積極的でない様に思はれる點
もあります。

次に第三特色は、幼兒の生活を成るべく渾然として分割しないものになければならんと云
ふことである。幼兒に限らず凡そ人間生活と云ふものは、いろ／＼な複雑な精神要素が適度に結
合しまして、それが複雑なる形を以て、而かも其間に統一のある形を以て現れて來るものであ

る。それを吾々が特別な方面に、或る一つの點だけ教育をすると云ふ様のことをするならば、折角統一のある、折角渾然と纏まつて居ります處の心の生活を毀してしまふことになる。殊に多方面にして而も統一あり、複雑にして而も單一である所の、兒童の生活に對しては一層左様である。處が教育に熱心に力を盡すといふ場合には、どうも心の一方の點を特に注意してその點にのみ偏つた發達をさせるといふことが尠くない。之れも程度の高い教育では時に已むを得ない。殊に専門教育に於ては、或る方面に特別な力を用ふると云ふことは當然であるが、併し幼稚園の子供に對しては、然う云ふ分割的教育をせねばならんと云ふことはないのである。加之幼稚園の子供の、自發的生活の内容と云ふものは、決して今日は此方の方面、明日は彼方の方面と區分的に現れて來るものでなく、渾一した状態を以て現れ來るものであつて、複雑にして而かも統一ある形を以て現れて來る處に妙があるのである。心理學的に人間の生活を見て、感覺とか感情とか、意志とか云ふのは研究上の抽象的分解であつて、之れをすぐ實際の教育に當て欲めて、そういふ分割的方法に於て兒童を教育して行かると云ふのは、非常な間違であると思ふ。私は之を幼兒教育の具體性と申して居ます。

次に第四の特色は、幼兒教育は概念的、觀念的でなく寧ろ情緒主義であるといふことである。元來吾々の心は情緒的の方面から發達して、それが觀念として出來上つて來るのである。心の發達の初期にある幼兒の生活も亦、情緒的の方面が主になつて居るのである。或は物の興味に就ても日常生活に於ても、吾々は常に概念的生活を加味して居るが、幼兒に於てはどこ迄も、情緒的生活が主になつて居る。すなはち、その情緒を中心としてゆく教育が行はれなければならぬのであります。

さて斯う云ふ風に自發的とか、相互的とか、具體的とか、情緒的とかいふ特色は、必ずしも幼稚園教育に限つた特色ではない。殊に現代教育の傾向は凡て斯う云ふ風の傾向に向つて居るやうに見へる。近頃いろ／＼な言葉を用ひて居る處の、兒童中心主義の教育、即ち子供を中心として行ふ教育は、言葉を換へていへば、形式及内容上に於ける自發的教育と云ふことになる。また此頃いろ／＼な方面に行はれて居る所の、自治性の訓練即ち學校に於ても成るべく自

治的生活を興へなければいけないとか、社會的の少年團や、或は少年軍などいふ風に、自治的生活を授けなければならんと云ふ主張が、近世的教育の色々な方面に行はれつゝある。是はつまり一方では、相互的生活を尊重すると云ふことになる。或は又、多くの現代教育家が、教育は吾々の實際生活から離れてしまつては何もならん。唯だ抽象的知識の教育で、實際の生活とは何等の關係の無いやうな教育は何もならん、實際の生活と密接した教育でなければならんと云ふ風に唱へて居る。それから又人間に對する教育の態度は、藝術的、美術的であつて、何も細かい方法や技巧とするのではない。一のインスピレーションによつて美的態度を生じ渾然として統一した働きを以てするのであるといふ處の、美的教育の云ふこともつまりは一種の具體的教育であり、又情緒的教育である。斯くの如く一般教育と云ふことに就いては、最近いろいろの方面から新説が出来て居るが、殊に吾々の幼兒教育にとつて、其の關係の深いことを見るのである。元來、幼稚園の教育は、一般教育學と少しも關係が無いといつた風であつて、小學校以上の教育に其の時代々々の適切なる學說の變遷があつても、幼稚園教育に對しては何等影響もなく、誠に心細い有様であつた。所が近來になつて、教育の傾向が觀念的、抽象的と云ふ方面

から段々實際的、具體的となつて來て、幼稚園の教育に至極く近いものになつて來た。而して幼稚園教育にとつて、其の學說の傾向が實にピッタリ合ふにやうなつて來た。即ち一方から見ると、近頃の教育學說と云ふものは幼兒教育の爲めに出來て居るやうにさへ見へるのです。

處で果して斯う云ふことが幼兒教育の特色であるとしたならば、吾々は幼兒教育の實際に於ても研究に於ても、此の特色を破ることなく、之れに及ばざるなきと共に、超脱することなき様心しなければならぬと信するのであります。處で若しも吾々が幼兒の自發性を尊重せず、自發性の内容如何に頓著なく、自分の理想のみを以て幼兒に對して行つてよいといふことならば、或は又幼兒の相互的生活を以て適當に誘導して行くことをせず、自分の直接の指圖干渉で、幼兒を保育してよいと云ふことであるならば、或は又幼兒に一方面の生活をのみ發達せしめて、渾然たる全一的發達をさせんでもよいと云ふのならば、或は又單に觀念的、概念的の教育をして、其の情緒全體に就て教育しないでもよいと云ふ事であるならば、却つて保育の仕事が手輕にも出來ようし、又何とか成功することも或は容易かも知れません。併し幼兒教育と云

ふものはそんな、容易なことではない。何の教育でも然うであるが、特に幼児教育は、前に述べた處の特色を以て居るものであるから、それで甚だ六かしいことになのです、之を要するに幼児教育は、方法上の細い技巧でなくして、此の教育の特色の根本的理解からなくては出来ないものであります。

以上、甚だ簡略な述べ方であるが、私としては多少考へて居る點もあつて申し上げた次第である。簡単なお話も、諸君のお考へによつて、少しでも意味あるものにお聞きなし下さつたらば、此上もない幸であります。

フレーターベル主義新釋

凡そ古いものに對する態度には、三つの種類があります。古いものは何んでも貴いものである。一途に尊重、尊敬すべきものであつて、これを非難する如きは勿論、批評を試むるさへも神聖を穢すといふやうな態度が其の一であります。次に古いものは何もかも時代後れのもので、今日の新しい時代にあつては、總て無用のものである。そんなものは頭から打ち毀そうといふのが、第二の態度であります。それから、總ての古いものを、常に其の古きが故のみからでなく、慎重なる研究によつて、詳細なる批評を加へると共に、益々其の眞價値を尊重しやうといふのが第三の態度であります。

幼児教育に於けるフレーターベル主義も亦此の三つの態度を以て迎へられて居るのであります。あるものは一も二もなくこれに盲從して、これに對し、彼れこれ論議を試むるさへ、相濟まぬやうに思つて居るのであります。そうかと思ふと、新しい時代の要求、新しい學理上の研究と

いふやうのものを振りかざして、フレイベル主義の或る缺點から、其の全體を却けやうといふやうな両方に極端な考へがあるのです。此の間に立つて私共の態度は如何にあるべきかと云ひますと、如上の兩極端論者は共に其の結論は兎も角、態度の甚だ淺薄なることを感ずるのであります。勿論、フレイベルの時代と今日とは、教育の基礎となるべき心理學の發達が非常に違つて居ります。従つて今日の眼から批評的に見たるフレイベルの教育意見は、自づから多くの缺點を有して居るのであります。然しその長所は勿論、缺點の裏にさへも、フレイベルの貴重なる根本思想の漂ふて居ることを見出すのであります。フレイベルの如き、教育上の學者と云ふよりは寧ろ天才であつた人に對しては、吾人の研究の進むと共に、缺點も明らかになると共に貴とさもまた益々大にならざるを得ないのであります。茲に敢てフレイベル主義の新釋と題しましたのは、この鋭さと謙遜とを失はざる態度を以つて、古いフレイベルを新しく考へて見度いと思ふのであります。

二

フレイベルの考へには、其の考へ方の形式に二つの特色があります。一は論理的なること、

一は象徴的なることであります。

フレイベルは必ずしも哲學者と呼ぶべき人ではなかつたのでありますが、其の性質と幼時の境遇とによつて、總てのものを深く／＼考へ、一々筋道を立て、論理的に築きあげてゆくと云ふ風がありました。其の爲めに氏の思想も方法も常に甚だしく理の勝つたものになつて居ります。この事は幼児教育に關するフレイベルの天才的思想に對しては、多くの悪しき影響を與へて居るのであります。氏の「人の教育」や「幼稚園教育論」等を讀めば、氏の思想が如何に理詰め主義であるかといふ事を氣が附くのであります。殊にも氏の所謂恩物は此の最も著しきものであります。御承知の如く、今日、普通に何の氣もなく用ゐられて居ります種々の恩物は、フレイベル自身の考へから云へば、大層な理論の籠つて居るものであります。先づ第一恩物の種は宇宙の統一を表はして居る完全體であつて、其の他の恩物はこれから、論理的に派生せられて居るものであります。詰り、フレイベルの考へでは、此の恩物によりて、氏の宇宙哲學觀が幼児に教へられて行かうとするのであります。

然るに斯くの如き恩物を以て、教育せられやうとする幼児そのものは甚だ非論理的なもので

あります。一體總ての教育法に論理的と心理的との二種があつて、其の論理的方法の多く不自然なることは児童心理研究の明かに認めて居る處であります。児童の了解は多くは全體から部分に及ぶものでありまして成人の抽象的な論理的解釋の順序とは全然違つて居るのであります。

現に今日に於いては、幼兒教育の材料として、所謂、恩物の使用は漸次減じて居ります。少くも昔の嚴格なる遵奉に對して甚だしく自由なる變改を加へられつゝあります。即ちフレイベルが恩物を用ゐて幼兒の自己活動を發揮せしめんとした、其の着想の根本は大いに尊重すべきではあります。其の實行上恩物其のものゝ組み立に關しては、今日の児童心理學の原則に反すると云ふことになつて居るのであります。

フレイベルを尊敬すると共に、其の恩物もまた必ず一々忠實に使用しなければならぬと云ふは、古きものに對する第一の態度であります。其の誤りなることは勿論であります。然しこれが故に、フレイベルが恩物を作りました根本の精神が全然捨てらるべき者ではありません。其の精神の採るべき處に従つて、今日の児童心理學上の原則から新しい恩物を児童に與へることは効が尠くないのであります。

即ちフレイベル主義新釋の大切なる一項目であります。

三

フレイベル教育の第二の特徴が、象徴的なることは、これまた彼れの著述の明らかに示して居る處であります。殊に彼の大作「母と子の遊び」は其の最も著しきものであります。彼の書の中に含まれたる多くの唱歌は、フレイベルの考へからいへば、自然、家庭、社會、國家等の抽象的觀念、及び児童自身の内的生活を象徴したるものであります。この象徴を透して幼兒にこれらの抽象的知識を與へやうといふのであります。象徴主義はフレイベルの教育思想の最大要訣の一つでありまして、幼兒の心理作用そのものが、元來象徴的なるものであるといふ説に基いて居るのであります。然しこれは今日の児童研究の明瞭に否定する處でありまして、斯の如きは、成人から見た解釋に過ぎないのであります。従つてこれを幼兒教育の手段とするの不適當なる事も云ふ用ゐません。而も今日尙且つ幼兒教育の象徴主義の遺弊を認むることは、談話材料若しくは唱歌の選定に於て、屢々見ることでありまして、これが爲に幼兒教育の新進歩を害することが尠くないと思ひます。元來、我が國古來の道德教育には、象徴主義の傾

向が尠くないのであります。先日も文政年間の著述で、當駿河の國に關係あつた後藤某といふ人の寫本を見ましたが、其中に子供の「おつむてんく」「かいぐりく」「てうちく」「にぎく」などが一々訓育的の意味あるものゝ如く解釋されて居るのを見たことがあります。例へば「おつむてんく」は、立腹せぬやうに頭をおさへる事である。又、「にぎく」は何事によらず、物事をにぎりつめず、又開け放しにせぬやう緩急程よくせよとの教へたと云ふ如きことが書いてありました。斯の如きは勿論、笑ひ話の如き極端なる例であります。程度こそ違へ、總てのものを訓育の象徴に解して行かうとする弊は、吾々にも少からぬことであります。

フレイベルの案出したる教育法の中で、この象徴的弊害を除くのあることは、最も注意を要すべき點であります。而して其の象徴主義の弊を排すると共に、この象徴によつて幼児に與へんとしたフレイベルの心の裏は、今日も尙、貴重すべきことであります。この尊重と改良とは、吾人のフレイベル主義新釋の第二の重要な項目であります。

四

此の他、新釋によつて研究を試みらるべき項目は尠なからぬことと思ひますが、フレイベル

の思想に誤つた表出を與へた大原因は、以上二つが最も主なるものであります。そこで、この誤れる衣を脱いで、フレイベル主義の根本に穿ち入りますならば、如何なる要點を吾人に教ふるでありませうか。これまた、細部に涉りますならば、限りなく多くの點を數へ得ることと思ひますが、兒童の自己活動を尊重し、遊戯を以て最も貴重なる教育法とし、自然を以て最も貴重なる教材としたる點であります。而もこれが前述の誤りである「母と子の遊び」の象徴的遊戯法によつて、眞の遊戯の意義が誤まられ、また論理的恩物の案出によつて、自然物による教育の新意義が減ぜられたのであります。果して斯の如しとすれば、私共フレイベルを尊重する者の今日の責務は、フレイベルを忘れて、大膽に新教育法に赴くことであり、フレイベルを研究して、其の深き眞精神の誤らざる表現を與ふることであり、

近來、教育學上の新主義として唱導せられて居ります彼の作業主義教育法の如きも、其の思想の根底が兒童の自己活動を尊重するフレイベルの思想の中に存して居るものであることは、多くの學者の明かに認めて居る處であります。其の形を捨て、フレイベルの眞精神を深く研究した者は昔から皆一種の作業主義教育者であつたのであります。又彼の教育に戯曲本能を

利用する新傾向の如きも、フレーベルの遊戯の教育の中に特に存して居るのであります。又、近時評判なる彼のモンテッソーリ教育の如きも、他の幼児教育者がフレーベル主義の形式に因へられて居る間に、其の沈滞を脱してフレーベル主義の一つの中核に徹底したるものに過ぎないのであります。即ち換言すれば、近時の教育上の新傾向は、何れもフレーベル主義の一種の新釋と云つても過言でないであります。フレーベルの偉大なる天才的思想は、其の短き實行の間に案出せられた方法のみの中に盡くるが如き小なるものではないのであります。吾々もまた、慎重と共に一層自由なる新釋を試むることが幼児に對する吾人の責任なるは勿論、フレーベルに對する責務でもあると信するのであります。

五

終りに尙一言を添へて置き度いことは、前にも一寸述べた如く、フレーベル主義新釋は單に幼稚園教育の問題のみならず、近時に於ては廣き一般兒童教育問題の傾向であることでもあります。これを他の方から言へば、從來幼稚園教育者のみの領分と認められて居りましたフレーベル研究は、一層廣き教育研究に重要な位置を占め來たつたのであります。其の幼児に對する

深き愛心、己れを空ふして此の小さきものゝ爲めに盡くす天職の高き自覺、また靜かに自ら安んずる自己慰安等に就ては、更めていふまでもありませんが、而も幼稚園教育が學問の問題として、何となく小さき事であるかの如き感じは、幼稚園教育者の往々にして免れ難き正直なる感じでありました。而も現今、教育學界の大勢は幼稚園教育者の研究問題に對して大いなる認識と、追従とを示して居るのであります。研究問題としても、幼稚園教育は、今や決して小なるものではないのであります。

お互に堂々たる自重を以て益々眞個のフレーベル主義新釋を勵まなければならぬと思ひます。

幼稚園と小學校との連絡

一 幼稚園と小學校との關係

小學校と幼稚園との關係と云ふことに就て色々の問題がある。しかも、其れが今日必ずしも理想的に滑かに行つて居ない問題であります。それに就て事實上の解決を考へる前に、先づ氣のつくことは、今日我國で行れて居るやうな小學校と幼稚園の實狀に於きましては、之を材料として幼稚園と小學校との關係を考へて行くといふことは餘程困難であります。従つて小學校の方からは幼稚園を責めると云ふやうなことになり易いのであります。其の結果として、幼稚園の方の人々は幼稚園の教育は小學校の教育に對して、直接の準備をして居るものでないといふ様なことを言つて見たりするのである。私共も時にはさういふ言葉を使ふ事もある。幼稚園教育は兒童生活の一般的の教育をして居るだけのことであつて、小學校の豫備機關として小學校の準備教育として居るものでないと云ふのです。其の意味は、我々の幼稚園は今日あるがまゝの小學校教育法に這入るのに都合の宜い様に、誂へ向きに、注文に應じて仕度くし

て居る所ではないのであると言ふ意味なのです。併し、何もそんな事を言ひ出す必要のない時、もつと平たく考へてゆきますなら、幼稚園の時期から小學校の時期に繋つて行くと言ふことは當然のことであり、又幼稚園を出た子供は悉く小學校に這入ると云ふことも、明瞭な事實でありますから、幼稚園の教育は小學校の教育に無關係、無頓着だといふことは、甚だ奇妙なことになるのです。矢張りあらゆる意味に於て幼稚園と云ふものは小學校教育の基礎となり準備となると云ふことは極めて當然なことでありませう。

然るに、往々議論が起るといふのは、詰り幼稚園と小學校の關係を餘りに區別して居るといふ所から起つて來る結果でありませう。實際問題として、子供の個人の發達から言つても、或は子供の教育全體から見通して云ひましても、幼稚園と小學校は決して離れて居るものでないのであります。併しそれを色々のことで離して居る爲に、斯う云ふ風な問題が起つて來るに過ぎないのです。

二 幼稚園と小學校との結びつけ方

そこで幼稚園と小學校とを離さないで結付けて行かうとするには二つの方法がありませう。

一つは教育行政の上から教育系統と云ふものを立て變へることでありませう。

それから一つは教育の行政に於ける系統は、必ずしも幼稚園と小學校とを一つに結び付けなくても、其の教育の方法に於て其關係を見出して行くと云ふことです。先づ其行政的教育系統の方から考へて見ますならば、幼稚園を小學校と同じ教育系統の中に完全に置かうとするには幼稚園を義務教育としなくちやならぬと云ふことになる。これは、よく主張する人もあり、私共も趣旨としては勿論賛成、賛成といふよりも進んで主張することですが、今日の實際問題としては、幼稚園を義務教育にすると云ふことは實行の點から困難があります。一つは國の教育經濟の問題即ち教育費の問題であります。今日のあらゆる國の普通教育問題として、所謂義務教育年限を上と下とへ延ばさうといふことがある。教育の進歩はおのづから此の問題を惹起するので、我國の目下問題になつて居る八年制論は、詰り六年の義務教育を上延ばすのであります。ところで、之れは、國民教育上何よりも急務とする必要で、一體、今日の文明國で、六年制にとゞめて居るのは、我國だけと言つていいのです。之れは、どうしても、一日も早く實現しなければならぬ。ところがそれには可成りの、經費を要します、それが我國として相當大

きな問題であることは、よく承知の通りです、さういふ今日の現状でありますからして教育を下へ延して行くと云ふことに就いては、理論としては其の見所に依つて何方が必要かと云ふ一概な比較論は出來ないのでありますけれども、今日目下の時代の實狀から見て、幼稚園と云ふものが、義務教育の中に本當に這入ると云ふことは、そう／＼急速には實現の六かしいところがありませう。そこで、義務教育にしないで、今日よりも幼稚園を發育させて行く方法、即ち幼稚園の社會的普及と充實を計つて行くと云ふ餘地はまだ幾らもある譯でありますから、我々の目前の努力はそこにあるのではないかと思つて居ります。

三 八才まで一統系

先づさう云ふ風な譯で教育行政の上で之を義務教育にして行かうと云ふことは、我々の希望する所ではあるが困難な問題であるとして、残る所の問題は即ち教育の方法を、幼年教育の本質に於て、即ち外的の結び付けでなく、内的の結び付けをして行かふと云ふことになります。而してこの内的の結び付けが充分出來るものだといふことは、今日の亞米利加などの傾向に就て見れば、既に悉く是認されたと云つて宜いことです。

即ち、コロンビア大學やシカゴ大學の初等教育のやり方などは、それを當然として解決して居ます。教育管理の上からは小學校と幼稚園とは分れて居りますが、併し其中の教育の内容に關しては、小學校の幼學年の一二年のクラスと云ふものは寧ろ幼稚園の方に附著して居るやうな、或は幼稚園が、此方に附著して居ると云つても宜いのでありますが、實際の上で幼學年は小學校から離れて幼稚園と一緒に居ると云ふやうな形をして居るのです。設備の仕方から云ひましても先生の働き方の上から云ひましても、其大學内の教育系統としては、一つ系統に置かれて居ます。昔に此二つの大きな大學の幼稚園でやつて居るばかりでなく、普通の師範學校にあります所の幼稚園に於きましても、少し進歩した所では二年級までは行かなくても一年級は幼稚園と非常に密接な關係を以つてやつて居る所が多いのです。

それから亞米利加に幼稚園普及協會と云ふものがありますが、ワシントンには其本部があり、シカゴの近くのドーナーグロブといふ處の幼稚園は其の協會でやつて居る所でありすが、其幼稚園普及協會と云ふものが初めて亞米利加に立ちました目的は、會の名のあらはす通り幼稚園普及と云ふことであつた。幼稚園と云ふものを成るべく多くの所に建て、行かうと云

ふ目的だつのです。所が今日の幼稚園を數に於て普及して行かうと云ふことは亞米利加ではもう必要がない問題になつて來た。そこで寧ろ幼稚園的な教育の本質、或は幼稚園的教育方法とでも云ふものを小學校へ普及して行かうと云ふ意味に於て、其の普及と云ふことの目的が變つて來ました。其の幼稚園教育の本質方法を何處に普及するかと云ふと、それは色々の所に其普及の餘地が存して居る譯であります。差當り幼學年の所に普及して行かうと云ふのです。幼稚園其もの、數を殖す爲に起つた幼稚園普及協會が、小學校教育に幼稚園をどう入れて行かうか、幼稚園教育法と云ふものをどう小學校に擴げて行かうかと云ふ風に目的を變へて來て居るのであります。其結果ドーナーグロブでは尋常一二年と幼稚園とを結びつけた一つの學校を建て、居るのです。そういうのが彼方此方に出來て居ります。ところで、此處の二年級を修了した所の子供は何處へでも自分の近處の學校の三年級に容易に結付けると云ふ機會が出來て居る。私共は初め其關係が非常に何だか難かしいことのやうに思へて、これは非常に良い考だが此處で二年までやつて三年以上を御やりにならないと、子供はどうなるのですかと云ふことを何か非常なる大問題のやうにして聞いて見ました。向ふの人には私の問ふ心持が能く分らな

い。何故分らないかと云へば私がそれを六づかしい問題にして居ることが分らない。二年が済んだら、何處の學校だつて其の年齢になつて居るものは其年齢の級として受取るのは當然ではないかと云ふ風に、らくなことに考へられもし行はれもして居るのです。我々の社會が斯ういふことをしたならば入學試験を屹度しませう。のみならずあんな自由な幼稚園なんかのやり方でやつて來た子供は、一層嚴密に試験しなくちやならぬと云ふ譯になりませう。處で話が一寸それましたが、此一二年と幼稚園とを結び付けるのは、即ち三才から八才までの教育を一つの教育區分に置いたことになる。教育の區分を三才から六才までにしないで八才までにすると云ふことの傾向は是は今日亞米利加に於て立派に認められて、もう議論時代ではありません。例の「幼稚園雜誌」といつて居た雜誌が「幼稚園及び初年級」と云ふ名稱になつたのも、もう古い事でありませう。さう云ふものを我々が讀んで居つた時に、一つの改良意見だと思つて居つた所が、今日亞米利加では事實上として承認され實行されて居るのです、殊に萬國幼稚園協會が幼稚園保育綱要を書いて居りますにも、矢張り八才までと云ふことにして書いてゐます。即ち八才まで適用される方法であるとして、幼兒教育を考へて居るのであります。

シカゴ大學の幼稚園では、幼稚園から廊下傳ひに小學校の一二年の教室があまりまして、さうして、幼稚園の方へ這入つて見ての感じと、小學校幼年級の組へ這入つて見ての感じと云ふものは少しも違はない。其子供の數の關係も、或は設備の様子も、或は其中で子供のやつて居ります生活の有様も、或は其中の裝飾も、ちつとも變らない。それから三年四年邊りの教室へ行つても、我が國のやうにきちんと机を置いてさうして他に動いてはいけぬと云ふやうなやり方でなく、亂雑に、彼方此方に作り掛けのものが、置いてあつたり、まあ仕事場のやうに教室が出来て居るのですが、一二年の方に於ては殊に幼稚園と同じやうな趣を備へて居る。我が國では幼稚園の方が小學校と同じやうな形を備へて居りますから、矢張能く似て居ると云へば能く似て居るのであります、それは逆に行つて居るのです。

コロンビヤの方はもつと徹底しまして、ヒル女史の監督の下に、一二年の組が出来て居りますが、之は全然似て居ると云ふよりも、殆ど同一の仕組で其部屋も共通に使はれて居ると云ふやうなやり方をして居る。此方でも先生は始終往復して居りまして、尋常一二年の先生は三四年の先生と話をするよりも、幼稚園の先生と話をする機會が多い位です。雙方の先生がさう云

ふ風に懇意であるばかりでなく幼稚園の先生は二年まで持ち上るのでありますからして、詰り教員の配當といふものが、同一組織のもとに行はれるのです。

四、初年級の革新

教育の方法に就きましては、シカゴの方もコロンビアの方も、所謂「プロヂェクトメソッド」を執つて居るのでありますからして、従來の學習的方法でなく暗記的方法でなく、従つて幼稚園に於ける方法と、小學校の二三年に於ける教へ方とその態度としては違つて居ない。勿論四才の子供のプロヂェクトと七才の子供のプロヂェクトは、其子供自身の能力の發達に依つてプロヂェクトの仕方が違つて参ります。内容的には幼稚園と小學校とは勿論程度が違つたものになつて來ますけれども、併し其取扱方としては、矢張或る一つの目的を立て、其目的に向つて問題を解決して行く。或は單に抽象的な問題を解決するばかりでなく、具體的解決、即ち製作と云ふことをさせて行くと云ふやうな點に於ては、幼稚園と小學校と云ふものは少しも違はないのであります。コロンビアの尋常一年を可成り續けて見ましたが、揃つて机を並べ其腰掛に皆一緒に腰掛けて、さうして先生から本を教へられて居ると云ふやうな形と云ふものは殆

どないのであります。部屋の中をちよつと見ると、極めて亂雑な、そちらの隅の方に机があつたり、椅子があつたりするやうな亂雑な仕方であつて、大工道具や木の切れがあつたり、色々のものでそこにあります。そこで子供は色々自分の作業をして居る。之は丁度我が國に於ても進歩した小學校ではやつて居る有様であります。所謂自由作業の時間と同じことを平常にして居るのでありますからして、子供の方から見ますならば、幼稚園の部屋に居ります時も、尋常一年の部屋に這入つて行く時も、自分の生活の態度に於て變へて行く必要はない。我國の様に、幼稚園に於けるあの自由な態度を、小學校に於ては所謂受身の學習的態度に變へて來なくちやならぬと云ふ必要は子供にとつて少しもないのであります。

従つて抽象的の自負心としては、自分は幼稚園から小學校の生徒になつたと云ふ多少の緊張は起るか知れませぬが、併ながら、我が國に於けるが如く、其の生活の態度それ自身が變つて來る爲に、今までは自分の興味を主として自分の好き好みでやつて居つた生活から、先生を主にした受身の生活に變つて來るとか、或は個人的な自由な生活から集團として纏められた束縛せられた生活をしなくちやならぬやうになつて來るとか云ふやうな、本質的な、殊に急劇な變化

はないのであります。是は甚だ注意すべき問題ではないかと思ひます。詰り我々の小學校のやり方では小學校へ來たと云ふ自負心から來る緊張よりも、其小學校に於ける生活の變り方から來る所の緊張と云ふものが、主になつて居る。所が亞米加流のやり方で云ひますならば、小學校へ入つた爲に何も生活それ自身を變へて一層鉢巻をしなければならぬ、一層縛を固くしなければならぬと云ふ風の無理な緊張はないのです。

唯自分は兄さんになつた。弟と云ふものが下に出來て兄さんになつたと云ふやうな人間的自負心から來る所の緊張が起るだけです。少くとも內的緊張は起りませうが外的の緊張を起すと云ふことはないのであります。

斯う云ふ風な形に於いて、小學校の幼學年級が段々幼稚園と云ふものと其關係が密接になつて參りますのに、我國では、幼稚園から來たものは小學校に於ける學習態度の準備が出來て居ないと云つて非難されたりして居る。詰り、受動訓練が足りないとか、集團的におとなしくして居る訓練が足りないとか言つて非難されたりするのです。大分違つてゐると言はなければなりません。

そこで、此の意味から忌憚なくいへば、小學校の幼年級に於ける生活そのものが、其學習的態度に於いて今日と變つて來て、幼稚園でやつて居ると同じやうなプロジェクトの生活、自分の目的を自分で解決して行くとか、或は具體的製作の生活が本體になつて來るとか、豫めさういふ風になつたならば幼稚園でならされて來た生活態度が、即ち小學校の生活に準備されて居るといふことになる譯です。此處に始めて、幼稚園と小學校との本當の滑かな聯結がつく譯ではありますまいか。

高等女學校と幼稚園

一

高等女學校に幼稚園を附設すべしとの論は、必ずしも事めづらしき説ではない。既に有識者の間に唱へられたことも一再ならず、また既にその実施をみてゐる處もある。しかも、我國全高等女學校中、現にその附設あるもの幾校を數へ得べきか。吾人は更めて大に之れを希望せざるを得ないのである。

現行制度に於ては、女子の師範學校に幼稚園を附屬せしめて、生徒をして保育の實習をなさしめることになつてゐる。而してその目的は或は幼稚園保姆となり、直接保姆とならざるもその監督者となるものゝために、保育上の實際経験を與へて置かうとするにある。或は又、それ程に直接でなくとも、初等教育者として幼児教育の大體の知識を得せしめようとするにある。即ち、いづれにしても教育者としての準備である。

高等女學校に幼稚園を附設すべしとの主旨は、之れとは必ずしも同一ではない。或る場合に

於て、之れと相類する結果になることもあるかも知れないけれども、一般としては、母たるの準備のためである。

高等女學校に教育を課することは、隨意科ではあるが先づ多數に行はれて居る。而して、その目的が教師を作るためでなく、母たるの資格の一つとして教育に關する知識を興へるにあることは論を俟たない。高等女學校附屬幼稚園は此の目的の最も有効なる一助たらしめんとするものである。

高等女學校に於て、教育科として與へて置き度いことはいくらもあるが、子供を教育する（平たく云へば愛撫保育する）ことの趣味、之れは是非興へたいことの一つである。勿論高等女學校生徒の年齢は、未だ充分此の趣味を理解せしめる時期でないと説く人もあるかも知れない。理論上そう言へない事もない。しかし高等女學校少くも五年生が、子供といふこと、從つてその教育といふことに就て可なり多くの興味を有することは事實である。導き様によつては、その興味に訴へて、この方面の可なり深みもあり、固定性もある教育が出來得るものである。しかも今日の高等女學校の教育科は、その點甚だ徹底して居ない。而してその徹底せざ

る理由の一つは、教育といふことが餘り知識になり過ぎるからである。尙一層推し進めて言へば、教育の對象たる子供といふものが、餘りに學問的に取扱はれて、抽象的になり過ぎるからである。而して此の弊を救ふための注意は種々考ふべきことがあるのであるが、附屬幼稚園を設けて「子供」と「教育」とを多少でも具體的に經驗せしめるが最も効果多き手段である。勿論高等女學校の現行課程のままで、此のために充分なる時間を得來することは困難である。根本的に革めなければならぬことになるかも知れない。しかし、出來得る限りの便宜を以て、或は幼児と共に遊び、或は幼児にお話をなし、或は玩具の整理法、また、その與へ方、辨當の世話、身體検査の方法、此の位のことなれば機會を見ての實習も必ずしも困難であるまい。假りに又特殊なる經驗を與へ得ない迄も、その實際の甚だ容易ならずして而して甚だ興味多きことであることを、實地の上に領得せしめることだけでも、効少なからずと思ふのである。

二

高等女學校附屬幼稚園は、たゞに高等女學校在學生のために用ひらるゝのみではない。吾人の寧ろより多くその價值を認めんとするは卒業生のためである。

高等女學校卒業者が、家庭に入つて主婦となる迄に尙ほ數年の準備を必要とする事情は、年を追ふて増加しつゝあると言つてよい。この爲に女子の高等の教育のための學校が設けられる他に、各の女學校は或は補習科其他の名稱のもとに此の機關を備ふることが最普通になつてゐる。而して之等の補習機關に於て、如何なる學課が補習せられるかと言へば、或は裁縫或は家事理科の如き學課である。之も勿論大に大切なることである。しかもこの折角の好期間を利用して、主婦の準備の他に母の準備として直接必要のことを補習するも、亦大に適當なりと信ずるのである。

此の目的のために、附屬幼稚園の充分自由に利用せられ易きことは、在學生のための場合の比ではない。或時は志望によつては、幼稚園に於ける幼児取扱の實習をその主教育となすも亦可なりである。而して、此の事は各自の母校に幼稚園の附設せられあるといふことによつて、始めて容易にし得べく、又おのづから獎勵せられ易いのである。

幼児教育そのものゝ方より言へば、斯くの如き練習生のために練習の具となることは必ずしも歓迎することではない。しかし、それは暫くそれとして、練習をなす人には如何ばかり有益

のことか測られない。假りに毎年の卒業生中、十人乃至十五人位の志望者を許すとせよ。之れ等の人々は、附屬幼稚園を中心として、子供の世話、教育に關する實地上及び實地に關聯する學問上の教育を受くること一兩年、その間に母として必要な諸技能を學び得るは勿論、更に此の實習を中心とする精神上の諸訓練を得ること、蓋し甚大なるものがあらう。吾人の信ずる處によれば、高等女學校卒業後數年の時期は、女子の精神的陶冶訓練を與ふるに最も効果多き時である。而してその爲には教説に訴ふるよりも、實地の上によき指導を與へ得るならば、其の効殊に著大なのである。換言すれば、之を體驗せしめるを最も有益とするのである。

子供の世話に詩の如き一面を具ふると共に、又甚だ現實なる一面を持つものである。一口に言へば多くの勞苦と又面倒と、殊に非常なる忍耐を要することである。更に極言すれば、子供が精神の訓練の上に何たる貴くして幸なる經驗であらう。況んや母校の師君は、その間に周到なる指導を與へて、その一日々々を自ら獨り經驗するよりも意味深きものたらしめる。何たる活きた補習教育であらう。

世には、眞に自己を訓練せんが爲に、或は慈善病院の看護婦となり、或は白痴院の助手となり、以て自己の愛心を試み又之れを純化せんとする篤志家も稀ではない。高等女學校卒業者が、幼稚園に入つて勤勞に服する如きは、之等の人々に比して、敢て言ふに足らぬ容易さである。しかも、程度こそ違へ、得來る精神上の利益は、聊か相似たりとも言ふを得よう。

若し又、學校の指導施設完きを得て、之れに幼稚園保母たるの免狀を與ふるを得ば、更に他の意味に於て好都合なる點も尠くない。

幼稚園の副次的任務

— 家庭教育に對する貢獻 —

幼稚園の任務が其の園児保育にあることは言を俟たない。幼稚園は之れが爲に其の力を盡し、専心餘念なかるべき筈である。

しかも、茲に、此の主要任務に必然に隨伴して然るべき、また、此の主要任務の爲に最も有利なる副次的任務がある。一般家庭教育の改善發達のために其の力の一面を用ゆることである。

家庭教育の學術的組織的研究の怠られて居ること、蓋し誠に久しいものである。今日學校教育の研究の斯くの如く活潑に進歩せる世にあつて、家庭教育の研究の缺けて居ることは、更めて考ふれば、寧ろ奇怪とすべき程のことである。勿論家庭教育は或る意味に於ては一種の自然的教育であつて、其の教育者たる親と、被教育者たる子との關係は、必ずしも教育學的知識がさきになつて而して後に行はるゝものではない。しかし、家庭教育が當然要すべき教育學的知

識は少くないのである。殊に現代の家庭教育が現代の文化を十分に利用して其の効果を高めんとするに就ては、誠に多くの原則的及び應用的教育知識を必要とするのである。而して、此の家庭教育に必須なる教育知識の研究に最も多くの便宜を有するものは、すなはち幼稚園である。蓋し小學校以上の學校教育にあつては、其の直接必要なる教育研究は、おのづから學校教育の特殊なる範圍に限られて、家庭教育の爲に資する處、甚だ遠きか、少くも間接的たらざるを得ない。勿論、學校教育に於ける訓練上の注意も、教授上の或る法則の如きも、家庭教育にとりて多大の参考となるものであるけれども、幼稚園教育のその如く、全部が、直接的に、殆んどそのまゝ家庭教育の資となる如くではない。

殊に幼稚園教育そのもの、方よりいふ時は、家庭教育をさきにせずして、其の教育の完きを期することは到底不可能と言つてよいのである。蓋し、學校教育も幼稚園教育も、之れを最も概念的に起原的に考へれば、家庭教育の補充的機關なるに於て差なく、すべての教育の基礎的様式は家庭教育に發すと言つてもよいのであるが、事實上今日の學校教育は、家庭教育とは多少特殊的性質と、多少獨立的性質を帯びる様に、それ自身の要求と發達とを遂げて居るのであ

る。之れに反して、幼稚園は、其の本來の性質上一つに其の範を家庭教育にとり、其の特殊化を避くべき當然の位置にある。勿論、幼稚園教育は幼稚園教育としての特別なる（家庭教育の研究以外）研究を要することも尠くないが、しかも其の全體に於て、殊に其の基礎的主調に於て、家庭教育の精神及方法の上に、其の研究を出發せしむべき苦のものなのである。即ち、學校教育學を知らずとも幼稚園教育は出来るかも知れない。しかし、家庭教育學を知らずして幼稚園教育は出来ないと言ひ得るのである。

尙ほ又、家庭教育と協力提携の必要に於ても、學校教育にとりて其の必要あるより以上に、一層細密なる、一層離るべからざる必要が幼稚園教育に於て要求せらるゝのである。換言すれば、學校教育は、家庭教育に無關係に、尙ほ多少の何物かを兒童に與へ得ることもある。しかし、幼稚園教育は、家庭教育の協力なくして、殆ど何の教育をも期し得ないのである。故に、家庭教育の改善發達を所希する點に於て、一般的にも、個々の兒童の教育の爲にも、幼稚園の熱心と要求とは實に切實を極むるものである。思ふに今日の幼稚園が其の當然の効果を擧げ得ないのは、其の責め幼稚園の方にもあるは勿論であるが、家庭教育が其の當然の協力を欠いで

居る爲であることも尠くない。此の意味に於て、家庭教育の改善發達は幼稚園自身にとつても最大の急務といふべきものである。

さて、此の副次的任務の實現の爲に執るべき手段は一つにして止まらない。

一、先づ我國中流家庭（或は其の幼稚園に通園する幼兒等の平均家庭）が、其の年齢の幼兒の爲に與ふべき家庭生活の標準を研究して、それを幼兒保育の大體の出發點とすると共に、甚だしく過不及ある家庭の爲に適當なる方法を以て忠告し、又社會的に示教することも極めて必要であらう。斯くいへば幼稚園が非常に大きいことをする様に思ふ人もあるかも知れないが、此の位の教育的見識は當然有して然るべきものと信するのである。

二、幼兒の衣服、辨當等のことについて、餘り幼稚園から家庭に注文する如きことは或る弊を伴ひ易いことかも知れないが、しかし是等の問題についても、家庭の相談に應じて十分教育的指導をなし得るだけの用意研究は出来て居なければならぬ。尙一步進んでは適當の時期に於て、各種の模範品を供覽して、其の方面の注意を促し、相談を誘ふことも必要である。

三、殊に玩具の撰擇等に就ては、大いに家庭に貢獻する處あつて然るべきである。幼稚園は

積木一方ときまつて居た昔なら兎に角く、今日の豊富なる保育材料は、家庭教育に適用すべきものが少なくないのみならず、大いに共通の研究題目を有する次第である。

四、かくて、幼稚園が家庭教育の研究の結果を適切懇切なる方法を以て普及すべき手段をとることも必要である。之が爲には随時に講演會や展覽會を催すこともよいのであらうが、能ふべくんば常時的に、徐々として而かも不斷に、此方面に力を盡すことが大切である。而して、幼稚園の應接室は、善く選擇せられ善く配列せられた表類や模範品類の準備をして、常に此の目的の爲に世の親達を迎ふべきである。

英國の保育學校

近世の社會的幼兒問題

近世に於て、社會的に幼兒の問題を注意するやうになつたのは、先づ第一には人口政策の上から起つて來た問題である。詰り生れて一年間位の子供、或は所謂嬰兒期と名付けられて居る二三歳位までの子供に非常に死亡率が多い。其死亡率が多いと云ふことは色々の原因もあるけれども、大きく考へて見れば要するに家庭の缺陷に基くもので、其家庭の缺陷と云ふ中には二つの理由がある。一つは家庭の物質的缺陷と、一つは幼兒教育者としての母の資格に於ての缺陷である。其物質的缺陷と云ふのは普通に云へば詰り貧乏と云ふことであるが、貧乏と云ふことに基いて、住居が狭いとか、或は食物を充分に與へることが出来ないとか、或は幼兒に適當な溫度を調整することが出来ないとか、或は適當な空氣を供給することが出来ないとかと云ふやうな色々の缺陷がある。それから母の方の資格に於ては、是に二つの問題があつて、一つは母が家から外に出て勞働するに、所謂工場勞働と云ふものが始まつた爲に、母親が自ら子供の

世話をする事が出来なくなつた。即ち其の根本的意味に於ける母の資格の缺陷である。それからもう一つは、假に家庭に母が居ても其母が子供を育てると云ふことに於て無智である。適當な乳の與へ方も知らぬし、適當な食物の調理の仕方も知らない。殊に子供の精神的の訓練の方面に於て母として非常に無智である。斯う云ふ理由に基いて、すなはち幼児死亡と云ふ現象が非常に多くなつて來るのである。勿論大きな社會政策の上からいふならば、幼児が死ぬと云ふことは必ずしも斯う云ふ家庭内だけの問題ではなくて、廣い社會の狀態に原因があるのであるけれども、それは暫くそれとして、兎に角斯う云ふ家庭の缺陷に基く原因を救つてやらうと云ふ所から、所謂幼児預り所とか或は保育所と云ふやうなものが起つたのである。ところで此の保育所と云ふものは甚だ色々の意味に使はれて居て、第一どの位の年齢の子供を預ると云ふことに就いても一定して居らぬ。或は又預つた子供をどう云ふ意味に於て保護して行くかと云ふことに就ても一定して居ない。或は又どう云ふ設備をしなければ保育所として社會が承認しないかと云ふやうな條件も充分に定つて居ない。或は保育所に働く人と云ふのはどんな人であるべきか、どんな人が其事業の實際の中心になるべきであるかと云ふことに就ても一定して居

ない。つまり年齢に於ても其の保育の仕方に於ても設備に於ても或は其幹部に就きましても充分に定つて居ない。そこで保育所と云ふ言葉は各國色々區々の内容を持つて使はれて居り、我が國の如きも極めて曖昧な言葉であつて、どんなことをしても保育所と名付さへすればそこが保育所として認められるといふやうな形になつて居る。そこで、誰も之に就いて判然と一定して行く権利もある譯ではないけれども、私は先づ便利上、英國が千九百十九年に發布いたして居る所のデーナーセリーの規則に基いて保育所と云ふのを解釋して置かうと思ふのである。

其解釋に依ると、三歳以下の子供を預る所を之を保育所として居るのである。以下の年齢は判然定めて居らぬけれども、英國の乳兒保護の政策に於て母親が自分の子供を自分で育てると云ふことを獎勵して居る點から、自分の乳を飲まして居る間は成るべくデーナーセリーに收容することをしないところがあり、つまり其意味から生後大體九箇月位まではデーナーセリーに預らないといつてよい。即ち母親が自分で之を育て、行くことと云ふやうなことを本體にして解釋して居るのである。勿論、事情によつて、極く小さい乳兒も預るが、詰り三歳以下の乳離れをした子供の世話をすると云ふことを以てデーナーセリーの本體とする。之が先づ、我々が今日

稍々判然考へられる保育所と云ふものであらうと思ふ。

處が最近になつて、此家庭の缺陷と云ふことは段々に廣くなつて來た。即ち家庭の缺陷と云ふことの意味が段々擴がつて來たのである。物質的の貧乏と云ふことは別に變りはないとしても母の生活と云ふ方面に於きまして色々又是が變つて來た。どう云ふ點に變つて來たかといふならば、今日の大體の傾向に於ては、母親が家庭に居ないと云ふこと、即ち母親が自分の子供を自分の家庭に於て育て行く暇がないと云ふことが、必ずしも以前に考へて居たやうな、極く低い意味の勞働階級の問題ばかりでなく、謂はゞ中流階級に稍々近いやうな所まで段々擴がつて來た。詰り初めは人口政策の上から斯う云ふ幼兒保護問題が發達して來ました時には、極く狭い意味に於ける勞働者即ち工場で働く所の勞働者の家庭を助けると云ふやうな意味であつた。所が近世の更に新しい傾向は極く低い意味の社會階級の母親のみが、其子供の保育に於て事缺くばかりでなく、其範圍がずつと擴がつて來たのである。ところが此範圍が擴がつて來ると、此の問題は單純な人口政策から、もつと普遍的な婦人職業問題に關係する所の現象に變つて來たのである。さて婦人職業問題に變つて來るといふと、其處に二つの結果が起つて來た。

一つは其幼兒を預る所の範圍が非常に廣くなつて來たこと、それから一面に於ては、其預るべき幼兒の年齢が段々に長くなつて來ると云ふことである。其幼兒の年齢が長くなると云ふとは他の言葉でいへば、學齡期まで之が延びて來ると云ふことである。つまり問題は年齢に於て段々延びて來ると云ふことは、學齡期まで近付いて來るといふことで、さうすると保育所が三歳以下の子供を預つて居たのに對して、之から又上の二年間と云ふを何處かで世話をしなければならぬといふことになつて來る。即ち六才以下の年齢の問題が此處に起つて來る譯である。此處で初めて本當の意味に於ける、嚴密な意味に於ける社會的幼兒問題と云ふものが起つて來る譯である。

元來生れて直ぐの子供を人口政策の上から保護すると云ふことは初めは佛蘭西に起つた事であつて、所謂母親學校と云ふ様な意味に於て起つたのである。それが亞米利加に於てデーナーセリーと云ふ意味に於て行はれた。それが亦段々に今いつた様な婦人職業問題が擴がつて來て、其要求を滿す爲に、デーナーセリーと云ふものが段々に其仕事を擴げて來て、即ち今日亞米利加のデーナーセリーと云ふものを見ると、必ずしも三才以下の所謂赤ん坊に屬するものが其處に生活をされて居るばかりでなく、もつと大きな子供が其處に澤山に世話をされて居る。

丁度幼稚園期に屬する子供が其處に澤山收容されて居るのである。もつと進んでは、更に小學期の子供まで預るやうな傾向を生じて居る。さうなつて來るとデーナーセリーと云ふものは何處まで其働が擴がつて行くか甚だ止る所を知らないやうな状態である。之も決して必ずしも悪いと云ふ譯ではない。デーナーセリーと云ふものが初めは社會の必要に於て眞の赤ん坊を預つて居たけれども、段々にそれが大きな子供まで延びて行けば、四才になつたものはもう私の所では預らない、小學校へ行くやうになつたから私の所では關係がないと云ふやうなことは云はず、必要に應じて其事業を擴大して行くと云ふのは大に良いことでありませう。併し、我々がデーナーセリーと云ふ問題を考へる上に於ては、餘り之が擴がつて行きますと何處まで行くのか分らない不便はある。

紐育のマンハッタン・デーナーセリー等は其例に於て最も著しいものであつて、眞の赤ん坊を入れて居る處のベビークラスもあるけれども、併し可成り大きな仕事が幼稚園期及小學校期の子供にも及んで居るのである。そこで若しデーナーセリーが其處まで段々進んで來て幼稚園期の子供まで入れるといふことになると、幼稚園とデーナーセリーと云ふものゝ區別が何處に

あるかと云ふ問題が當然に起つて來る。即ち幼兒の社會的及教育的問題と云ふことの關係なり區別なりが何處にあるかと云ふことになつて來る。我が國に於ける現状は稍々其状態に入つて居る。

保育所と幼稚園

即ち幼稚園と云ふものと、保育所或は托兒所と云ふやうなものとどう云ふ區別があり、何處が違ふかといふ問題になる。之は經濟的に區別するならば、幼稚園は保育科を取つて居る所であり、托兒所は保育科を取らない所であるといふ風もある。即ち亞米利加流の言葉で云ふと、無料幼稚園であると云ふやうな意味に於て此デーナーセリーを普通幼稚園から多小區別することも出来る。併し是はたゞの經濟上の區別であつて、其内容に於てはどう違ふかと云ふ問題は甚だ曖昧になつて來る譯である。ところで亞米利加に於ては幼稚園と云ふ言葉が二つの意味に使はれて居る。一つは幼稚園と云ふものは例へば何々小學校附屬幼稚園とか或は某私立幼稚園であると云ふやうに、一つの教育の場所を名付けると云ふ意味に於て使はれる。我々の使つて居るのも其の意味である。それからもう一つは、幼稚園即ち、キンダーガルテンと言ふ言葉は

教育の性質をあらはすことに用ゐられる。此二つは差別があるのである。即ち今云つたやうなデーナーセリーが子供の年齢を段々擴大して来て、五才六才の子供まで居ると云ふことになつて来ると、此デーナーセリーの中に於て、キンダーガルテンメソッドを用ひて教育すると斯う云ふ風な考へ方をして居るのである。亞米利加の良いデーナーセリーでは、多くは衛生的方面の人が世話をして居る。其處へ特別に幼稚園の先生が居て教育方面を擔任するといふやり方である。其人が時間を定めて子供の教育をする。其處に泊つて居るのもありますが、或る場合に於ては通勤で来る人もある。さう云ふ風な意味に於て幼稚園と云ふことが幼稚園的の仕方即ち幼稚園教育法と云ふやうな意味に於て使はれて居るのである。さう云ふ風な關係でアメリカではデーナーセリーと幼稚園と云ふものが益々區別が曖昧な關係になつて来る。言換れば社會的幼兒問題と教育的幼兒問題とが、段々接近し或は混合して来て居ると云ふことが云へるのである。ところが、英吉利に於ては之を判然區分する爲に、唯今申上げた如く千九百十八年に、デーナーセリーの法令を發布して、それを三歳までに限ると共に他の方面に於てナーセリースクール即ち保育學校と云ふものが初めて公認されたのである。

英國の保育學校

其の保育學校と云ふのは英吉利には前からあつたものであるが、元來英吉利には幼兒學校と云ふものがあつて、それが小學校に附屬をして居る。小學校の前にさう云ふ幼兒教育をするのである。其幼兒學校と云ふ所では、相當に智的な教育を與へて、我が國の言葉でいふならば、読み方書き方及び數へ方と云ふやうな簡単な智的な教育もして居る。それが近世の幼兒教育の思想から云へば甚だ適當でないといふやうな議論が起つて來た。それに對して可成り古くから此ナーセリースクールと云ふものが一方に起された譯であつた。

保育學校と云ふものは矢張り小さい子供を入れるけれども、併し在來のインファントスクールでやつて居りましたやうな智的な教育を成るべく避けて、幼稚園的教育をして行くと云ふのである。色々の先驅者があるが殊に倫敦に居るマクミランと云ふ人がその方の先覺者であつて、自分でも相當立派なナーセリースクールを持つてやつて居る。つまり、英國では、一面にはインファントスクールがあり一面にはナーセリースクールがあり、一方では智的な教育方法をと、一方では自由な生活を與へるといふやうな二つのものが對立して居るのである。之れは英

吉利人も妙に考へて居つた所であり、今から約十四五年前から、特に政府が其點に非常に注意をし始め、斯う云ふ調査を可成り大仕掛の方法に於てやつたのである。そのために五才以下の子供を教育する其仕方は現在どう云ふ風な状態になつて居るのであらうか、或は又どういふ風なやり方をしたらいふものであらうか、詰り五才以下の兒童、吾々の云ひます所の所謂幼兒期の教育と云ふことに就て調査をした。

又一面には歐羅巴の各國の状態を調べる委員を作つて、委員は皆婦人だけでさう云ふ調査を試みました。それに依つて今から十五年前に或る一つの調査報告が相當の内容を持つて發表されて居る。其時に其委員の結論が大體ナーセリースクールの方を是認する傾向を持つて居つたのである。即ち、インファントスクールは幼兒に甚だ適當なものでない。インファントスクールと云ふものは甚だ缺陷がある、併ながら缺陷があるならば直ぐにインファントスクールを廢めて仕舞つて、學齡に達するまでは學校教育と云ふやうなものに子供を連れて來ない方が適當かと云ふ問題を其處に出して、委員の答は斯う云ふ風になつて居る。

私は面白いと思つたのですが、其報告の中に英吉利の多數の家庭は未だ決して幼兒にとつて

悉く完全なものと云へない。しかも幼兒を小學校に連れて來ると云ふことも色々の弊害がある。併し其の不完全な家庭と、學校に伴ふて居る弊害と云ふものとを引きくらべて考へれば、矢張學校を設けた方が宜いと云ふ極く常識的な議論をして居る。何も頭から五才以下の子供に特別に家庭外の教育をしなければならぬと絶對的のものとして説くのでなくて、成る程それは弊害もあれば缺陷もあるであらうが、併ながら幼兒の爲に一番良き世界である家庭と云ふものにもまだ完全と云ふ譯にいかぬ點があるとすれば、つまり此の方が利があると云ふやうな意味に於て此インファントスクールの存在を是認して居るのである。

英吉利のことですから、何事もゆつくり運んで來るのであるが、それが段々社會的問題になつて、さうしてつい最近に、千九百十九年即ち戰爭の最中でありました。英吉利の教育の大改革が起つた時に、ナーセリースクールと云ふものは、斯く／＼あるべきものである、といふ相當に委しい一つの法令を發布して、其法令に基いて設けられたものは國家が其經費の約半分を補助すると云ふことにしたのである。勝手に作るならば作つてもいふ従來の態度から、法案に叶つて作るならば其半分の費用を補助すると云ふやうな意味で法令的に公認したのであ

る。

勿論ナーセリースクールと云ふものは英吉利に於て今日義務教育の中に這入つては居ない。云換へれば各地方は必ずナーセリースクールを作らなければならぬと云ふ規則ではなく、又總ての子供が必ずナーセリースクールに行かなければならぬと云ふことにもなつて居ない。英吉利の文部省はナーセリースクールの利益を述べて、出来るだけ之が多く普及することを希望し、殊に婦人職業問題に密接な關係のある地方に於ては、ナーセリースクールの速かに設けられることを希望すると云ふやうなことを獎勵的に述べては居るが、義務教育にはなつて居ない。併し、義務教育にはなつて居ないけれども、此處に始めて、ナーセリースクールと云ふものに依つて、五才までの子供を社會的に世話をし教育するのが正しいやり方であるかと云ふことが、國の教育法令に依つて定つた譯である。或る特別な慈善家が哀れな子供を預るとか、社會が或る特別な必要に迫られてナーセリースクールを作ると云ふのではなくて、國家が五才までの子供はどう云ふ風に世話をするのが適當であるかと云ふことを規定した譯である。そこで前に云つたやうに、千九百十九年の法令でデーナーセリーを三才までと限つたのであるが、ナ

ーセリースクールは二才から五才までと云ふ風に定められて居る。二才と三才、之が妙に食ひ違つて居るやうであるが、之は兩方共何も義務教育でも又義務機關でもないのであるから、どうしても自由である。英吉利の流儀で其處らは實に各自の自由の餘地が存してある。若し公的に承認せられたデーナーセリーに子供が這入つて居るならば、それは三才から後にナーセリースクールに引移つても宜いと云ふことになつて居る。更に若しデーナーゼリーに於て必要があるならば、即ち、其近所にナーセリースクールがないと云ふやうな時には、三才以上の子供が止まつて居ても宜いと云ふことになつて居る。而してデーナーセリーの方は衛生省と云ふ方で管理して居る。日本で云ふならば内務省の衛生局である。之は戰時中に英吉利が國民衛生の非常に大切なことを感じて、衛生省と獨立したのであるが、其衛生省で管理して居るのである。従つてデーナーセリーの規則、及びそれを監督する方のことはその方で受持つてやつて居る。それから新しく出來ましたナーセリースクールの方は、當然文部省の方でやつて居るのである。

保育學校の目的

ナーセリースクールは今云つた様な譯で公認されたのであるが、其目的は二つあると考へられて居る。即ち身體的保護、子供の健康に屬する問題と、それから、心の方の一種の訓練、此二つの目的になつて居る。デーナーセリーの方は身體の方が主であつて、さうしてそれに附隨して、矢張り精神的の方も幾らか注意しなければならぬと云ふやうな説き方になるのであるが、ナーセリースクールの方に於ては之が同一の價值を持つた二つの目的として考へられる。身體的の方では營養と休息と運動と此三つを充分に與へる。さう云ふ目的からナーセリースクールでは必ず食物を子供に與へる。朝子供が來ると、朝とお晝との間に一度間食を與へる。それから晝の御飯を與へる。それから歸るまでの間に又一度與へる。若し必要であるならば朝飯も與へたら宜からうと云ふやうな議論もある。詰りナーセリースクールを英吉利の文部省が承認した大きな理由の中には、次の様な理由があるのである。大戦争の結果英吉利の壯丁の健康を調査して見た所が青年の健康に甚だ欠陥が多い。是は小學校の義務教育の中でもう少し注意しなければならぬといふ結論になるのだが、所が小學校の方では小學期に於て非常な注意を以て子供の健康をはかつて、既に六才に於て子供を受取つた時に多くはもう身體が悪くなつて

居る。即ち入學の以前にもう少し早く手を著けて居たら宜かつたらうと云ふことが屢々起るのである。英吉利の近頃のどの教育問題の中に於ても始終さう云ふ言葉を使つて居る。何事にももう少し早く手を著けて置いたら宜かつたと云ふのである。で六才から學校に來ます前に社會が其子供を世話したら宜からうといふことに歸着する。それには學齡前の子供を各家庭に任せて、其子供の物質的欠乏の方を無視し、なるやうにならして打捨て、置くと云ふことではない。それを社會が少くとも監督し監視し、又世話をし得るやうな途を付けておかなければならぬといふことになる。ナーセリースクールがその任にあたる譯である。食物は勿論無料で與へる。それから休息と云ふことは、之とまあ同じやうな意味のことであるが、即ち學齡前の五才以下の子供にとつては必ず適當な睡眠を與へなくてはならぬ。其爲にナーセリースクールに於て必ず設けなければならない一つの設備として子供の寢床を作るのであります。一番良いのは折疊の出來る寢椅子であるが、若し已むを得なければ何か敷物を板の上に敷いて寢ても宜いと云ふやうなことになつて居る。兎に角晝の食事の後暫くの間は必ず寝かすのである。それから運動と云ふのは特に特別な運動法を課する譯ではないが、戶外生活と云ふことを非常に重

んする。日光の充分に空氣のよく流通する庭に於て子供に多くの時間を費させると云ふことになつて居る。斯う云ふ條件に於て充分設備をして居れば詰り文部省の認可を得られる譯で、其費用の半分の補助を得る譯であるから斯う云ふことも相當に豊かに出来る譯なのである。

それから訓練の方に於ては前にいつたインフアンススクールに於ては読み方書き方數へ方と云ふやうなものを教へたのであるが、今度出たナーゼリースクールの方に於ては絶對的に読み方書き方數へ方を教へることを禁じて居る。詰り教授と云ふことを一切させないのである。然らば、どう云ふことを主にするかと云へば、我國の言葉では甚だ適當でないが、生活作法といつたやうなことを訓練する。日本で行儀作法と云ふのは人に對する禮を失しないやうにとか、或は紳士として或る形をすると云ふやうなことであるが、ナーゼリースクールに於て要求されて居る生活作法と云ふのは、即ち生活に關する作法で、作法正しく御飯を食べるといふのは、何も食卓禮式をどうすると云ふばかりでなく、適當な定つた時間に食事をする、能く嚙んで食べると云ふやうなことを含むのである。不淨場などをなるべく汚さないやうにする。或は手が汚れて居れば、奇麗に洗ふとかいふのが生活作法で、さう云ふ意味に於て訓練をさせるのである。

る。

其他所謂從來の幼稚園でやつて居るやうな、教授ではないが一種の智的訓練、即ち幼稚園の言葉で云ふ感覺の訓練と云ふやうなことをもする。但し感覺の訓練と云つても特に英吉利の文部省が注意して居ることは感覺の基本的發達であつて、餘り細い感覺の識別作用などはさせてはならないと云ふことになつて居る。

感覺の訓練と云ふことは御承知のやうにモンテツソリーが特に世間の注意を惹いて居る問題である。モンテツソリーの感覺訓練と云ふことは細い感覺の差を識別することである。例へばモンテツソリーはあの觸覺によるのでも天鵞絨と他の布とを觸り方で區別させるとか、或は色にしても例の色糸巻きのやうなものがあつて、こまかい色の濃淡を區別させる。所がナーゼリースクールに於てはさういふ感覺識別力の訓練はしてはいけないと云ふことを云つて居る。それならばどういふことをするかと云へば、例へば音なら音に就いても、モンテツソリーの所でやつて居りますやうな、此音と此音と何方が大きいか、此音は何の音だ、此音は銅鐵の音だ。此音は錫の音だと色々聞分けるのでなく、耳の感覺の訓練と云ふことは色々の音に對して。正

しく聞きさへすれば宜い、或は其音に對して注意深く音を聞き得る聴覺注意の働を發達させて行けば宜いとする。或は視覺の方にしても、色々の細い區別、赤なら赤を並べてどつちが濃いか淡いかと云ふやうな細い問題でなくて、色といふものに就て注意を持つことが出来ればよいとする。何も抽象的に取出して實驗心理學の方でやるやうな色彩感覺の區別と云ふやうなことをしなくても宜いと云ふ説き方をして居る。之れは非常にいゝことだと私は思つて居る。

保育學校の實際

それから此ナーゼーリースクールの實際の方面を見ると、先づ四十人位を一學校の普通の定員として居る。但し事情によつて、百人までは許される。併しながち百人以上を超えることは出来ないことになつて居る。それから其處で働くところの人は日本流に云ひますならば、主任の人と、其主任を助け行く所の主任補助、それから保姆、それから甚だ妙な言葉であります、見習と云つたやうなもの、之だけの人が必要だと云ふことになつて居る。四十人であつてもだけの人が居なければならぬのである。詰り其主任が總ての經營のことから、社會の關係或は教育の色々の管理と云ふやうなことをする。補助はそれを補助する。それから保姆は其の子供

の直接の世話をする。それから見習と云ふのは英吉利流の一般のやり方であるが、十八才以下の若い人が將來保姆となり補助となり主任となる見込を以て此處に行つて働いて居るのである。是は有給の見習であるが、十八才以下の若い人を使つて居る。斯う云ふ風であるから、ナーゼーリースクールと云へば極めて簡單なものゝやうであるけれども、四十人五十人の子供をたつた一人の人が保育して居ると云ふ風な事は許さないのである。私が一番委しく見たナーゼーリースクールは先き程申したマーガレット・マクミラン女史のやつて居る倫敦の場末にあるものだが、そこではマクミラン女史が主任となつて、さうして幾人も保姆や見習が居る。其設備は決して贅澤な建築と云ふ譯ではないが、室の一面は吹曝して、南を向いた方は戸もなく、障子もなく、柱だけになる建て方である。即ちあげれば全く戶外生活に繋がつて行くやうな建て方である。それから其建築物に比較しては立派な臺所があつて、其臺所で色々營養食を拵へて食べさせる。ナーゼーリースクールに臺所と云ふものは非常に必要なものである。子供達の晝寝の設備としては、此處では矢張り折疊みの出来る椅子を用ひて居て、其椅子のいらぬ時は疊んで片付けて居るが、時間になると出して寝かせると云ふやり方をして居る。たゞに、此所ばかりでなく、

其他多く見たナーセリースクールの中には、まだ斯う云う立派な整つた設備を持つて居るものばかりではなかつたが、兎に角く食物を興へることゝ休息を興へることゝ戶外運動が出来ることゝ云ふだけの設備は何處にでも出来て居るのである。

シカゴ及コロンビア大学の幼稚園

私が二年餘の間にアメリカ、イギリス、大陸の方の國々で觀た幼稚園の數は相當に澤山ありまして、種々な良い印象を興へられました。今日此處では、比較的長い時間を費して、見學しました二つの幼稚園——シカゴとコロンビア大学の附屬幼稚園——に就て、今日のアメリカに流れてゐる幼稚園教育の主なる傾向をお話しいたしませう。

もとより私が見ました幼稚園の中には、之れ等二つの幼稚園より以上に、私として、氣にいつた幼稚園があり又保姆の方々にしても、却つて田舎の方々の中に、私として、尊敬したい人々が居られましたので、此の二幼稚園だけが、アメリカ中で一番よい幼稚園といふわけではありません。たゞ御承知の如く、アメリカに於て此の二大學は教育大學として最も權威ある大學でありまして、その教育大學中の幼兒教育研究所として、此の幼稚園が設置されてゐるのであります。

シカゴ大學の幼稚園

私は半年の間をシカゴ大學に送りましたが、幼稚園の建物が此處に附屬して居りましたので屢々此の幼稚園で實地研究をいたしました。大學の講義としては主としてはテンブル女史が其任にあたり。實際方面には他の保母の方が當つて居られました。

幼稚園はその部屋が第一に關係するものでありますから、先づ、部屋のことに就てお話をいたしませう。

中央に大きい室があつて、此の部屋は凡そ何坪位かあまり廣くはありません。丁度私が居りました頃は極寒でしたから、子供等は皆、厚い外套を着、厚い靴を履いて居りましたが、それ等は皆入口の廣い廊下室でぬいで、一人々々の戸棚に入れて居りました。凡てアメリカの學校では、銘々の戸棚があつて、自分で其の鍵を持つて居ります。幼稚園では鍵は使ひません。

中央の部屋の中には、砂箱と、ピアノと、先生の机とが置いてありました。つまり先生は幼兒の室で事務を執つて居られました。此の室の奥の稍小さい室には綠色のボードがありまして、主として文字を教へる所となつて居ります。次は押入の様な處で保育材料が入れてありました。その隣室は保母の方の休憩室とでも云いたげな小さい部屋で、テンブル女史は常に此

處に居ました。其の次の部屋には大形の積木が置かれてあつて、子供等は自由に出入して居ります。之れが廊下について居るのです。子供等は皆で三十六人といふ事でしたが、寒い時であつたからでありませう、二十四五人の出席者でありました。さて、此の部屋々々で何をして遊ぶかと申しますと、こゝでは毎日一定のプログラムに従つて十分乃至二十分位にきりながら時計を見ては次から次へと、豫定の保育をプログラムに少しも違はぬ様にして居ました。斯うして朝九時から十一時までの時を子供と共に過すのであります。其の間に約二十分位の休憩があります。

音楽や遊戯をする時、一寸變つて居ると思ひましたのは、黒板に歌ふべき歌、なすべき遊戯の名を書き、子供等はそれを見て、ピアノの鳴るのを待ちかまへてゐるといふ様子でありました。日本では、學校を始め一體に耳から聞いて種々な事を知るといふ風であります。アメリカの様な繁雜な所では、凡てが揭示組織になつて居まして、銘々自分で氣をつけて其揭示を見るのです。主として目から知ると云ふ事が行はれて居ます。即ち此やり方も幼稚園から揭示を見る稽古をさせる事になる譯でせう。

手工は、大體に於て構成的で、その材料は大きな厚紙などを使つて、停車場町の模型、人形の家などを作つて居ます。之は保育をして社會生活、自然研究に聯絡あらしめ様とする趣旨であつて、我國の幼稚園や小學校等に於けるが如き、子供の製作品を、單に美術工藝品的に賞玩するのとは、大分の差異が認められました。

さて、そのつくられた停車場、人形の家などは、廊下の一端に一段高い床の間の様なものを設けて、此處に竝べておき、そこに小さい町を營ませるといふ風にして居りました。私が行つて居りました時は、丁度シカゴ市街をこしらへて居りました。かくの如く、アメリカでは一般に社會生活を教育内容の中に取り入れておつた事は、著しく認められる所でした。

それから、文字を教へると否との問題は、日本でかなり長い間の問題となつて居りましたが、あちらでは教へて居りました。之は印刷した型の文字、アルファベットを竝べて、易しい文句とか、歌とかを與へ、専ら讀む力を養つて居りました。

十一時半になると、母、姉等が見えて或る者は暫らく先生と立話をしたりして、子供等をつれて歸へります。アメリカの幼稚園では大體お辨當といふものが無かつた様でした。

さて、以上が、シカゴ大學に於ける幼稚園の、極く大體の内容であります。二十分位の一
度の中休みを置いて、プログラムの豫定の通りに、次から次へと保育をして行くといふこと
は、幼稚園生活を少しも無駄のない様にとの考へからであるとすれば、大變な經濟的な仕方
でありませう。そして先生が此の様な仕方にも少も窮屈を感じないで、極く自然にして行か
れるならば、此の方法も必ずしも悪くはないかも知れません。しかし私には、此の方法の爲に先生が
いつも追はれて居る様に見受けられました。又、私のやうに時間のゆつたりとしたことが好き
の者には、少々目まぐるしく感じられました。先生は、子供達の、現在の生活、乃至一人々々
就いて注意するよりも、自分のつくつた計畫に氣を取られ、時間に追はれるといふ様のこと
もありさうに見受けられました。

しかし、此處で最も感じましたことは、此の様に複雑なプログラムを定め、此の如く正確に
時間を追ひながらも、先生の態度の如何にも落ちついて、平靜であつたことです。絶えまなく
斯うして居られる先生の、頭の中は、かなり忙しいのでありませうのに、その態度の沈着に
見えたのは、吾々として考ふべき種々な原因があると思ふのです。

先づ第一、建築其のものが、如何にもどつしりとした落ちつきをもつて居た事です。壁の色、敷物の色、器物、カーテンの色、凡てが厚味をもつて、色の調和がしつくりとしてゐました。室内に日光が少く、うす暗いことはいふことでありませんが、それも電燈の光で落ちつきと柔らかさを補はれて居りました。窓には縁濃き常磐草の大鉢が列べてあつて、室全體の空氣をうるほして居りました。その中で、先生は、自分の卓をひかへて居ましたが、私は落ちついた静かなおかあさんが、針箱の前に坐つて、手を働かせながら 家中の子供を見守つて居られるのを見る感じをあたへられました。先生が、子どもを見廻はるために、室内を右往左往しないといふ事は、かなり幼稚園全體の空氣を靜かにするものだと思はれました。

それに、先生方の聲も極く低いのでして、時には大學の方の女學生が三人位づゝ來て實習して居りましたが、何れも、極くさゝやかな聲で話して居りまして、時々とんきようにひゞくのは參觀人の私の聲位のものでした。

先生の子供に對する態度は、人に依つて種々ですけれど、シカゴでは、一體に極く無表情でありました。我國の様に取らたてゝニコ／＼するといふのではなくて、いつも同じ平常の態度

を取つて居られ、而もそこに何ともいはれぬ親しさが包まれて居るのでした。

此の様にシカゴに於いては、我々の幼稚園が學んでよい澤山の印象をあたへられた事でありました。

コロビヤ大學の幼稚園

さて次にはコロビヤ大學についてお話をいたしませう。

シカゴの大學と違ひますのは、シカゴは小學校の部に幼稚園が屬して居りましたが、コロビヤの方は、幼稚園及幼學年といふ特別の部が出来てゐまして、即ち小學の一二年までを幼稚園の保母の方が教へられる仕組になつて居ることでした。そして此の主任として、彼の有名なヒル女史がその任に當つて居られました。建物はシカゴと同じ様に教育大學の一部にありまして、先づ大學の玄関を這入つて左側の明るい部屋が、此の幼稚園であります。其の室は可なり廣くて、此の中の一隅にはメリーゴウラウンドもあれば、滑り臺もあり、三つ計りの室内ブランコもあり、又其の一方の隅で積木をしてゐれば、別の隅では製作をしてゐるといふ具合で、凡て此の一室で行つて居りました。之れが先づ第一に、シカゴと異つてゐる所でありました。

但し此の廣い室の他に極く幼い子供の爲の室があります。それに隣接して、小學校程度の子供の室があるのです。そして保育の方法もシカゴと異り、極く自由な、いはゞきちん／＼としないものであつた。大體に於て私が常に主張して居りました處の小分團保育なのであります。それ故シカゴと比べたなら、稍々落着きを缺いて居つたと思ひました。しかし、ヒル女史は、勿論その様な點を少しも苦にしては居られませんでしたが、私にも、それ程氣にかゝらぬ程度のものでした。ヒル女史は自分の主義を明かに此の實際に表はして居られまして、女史の主義に依れば、大人の目から見て多少落ち着きを缺いて居るといふ事は、何でもないことだといふ風でした。但しアメリカでも、此の點に對しては、或る一部の非難があるといふことをヒル女史自身もいふて居られました。

ところで、此の二つの幼稚園が共に、一般我國の幼稚園と比べて、一番物足りなく思ひますことは、これらの幼稚園が自然に接する機會の甚だ少い事でありました。勿論あの繁華都會の幼稚園としてそんな事は求める方が無理だともいへるのですが、美しい花の下や青い草の上に遊ぶ我が國の子供と比べますと、氣の毒に思ひます。それから、今一つどうも物足りなく思

つたのは、わが國でも私共の最も困難として居る事ではありますが、幼兒の相互生活が未だ充分よく出来てゐないといふ事でありました。我が國でも、子供對先生、子供對仕事といふことになつてゐて、子供對子供といふ生活が（自由遊戯の他で）充分に行はれて居らないのであります。が、あちらでも理論は進んで居ますが、充分實現といふ所までは入りきつて居らなかつたやうに思ひました。

幼兒教育の研究

次に此の二大學に於きまして、幼兒教育を研究し、幼稚園教育者を養成して居りますが、それは、大變に、徹底的で大仕掛なものでありました。殊にシカゴでも、コロンピヤでも、幼稚園の保母になる人は必ず小學校の一年二年を受け持ち得る人である様にして居ました。逆に小學一二年の先生が幼稚園に行けば立派な保母になれる様に教育せられて居るのでした。實に此の二大學初め、他の場所でも幼稚園教育學がかゝる位置を與へられ、幼兒教育者が斯くの如く教育されて居ると云ふ事は、或國に於ける状態と非常な相違を感じたのであります。

處で、此の二大學に於て、幼稚園教育が新しい意義で盛になつたには、彼のデュエー教授の

力に依るものが多いのであります。氏は、シカゴ大學に於いて自己の學說思想を實現して後、コロンビアに行きましたが、其の考へ、即ち、社會的な意志的な人間陶冶を主とする教育主義を幼稚園にも用ひたのであります。机を並べて知識を受けると云ふので無く、又斷片的に種々な事を覚え、様々な製作をすると云ふので無く、その日課の中にその遊びの間に、社會生活の面影をうつさうとするのであります。氏の此の考は遠く溯つて見れば、もとより、フレイベルの思想の中にもあるのですが、フレイベルの説は哲學的な人格本位教育であつて、従つて其の社會生活觀も、個人の人格を完全なものとして、その個人が集まつて一つのよき社會を造るといふのであります。處が、現今では、非常に社會的生活を主體とする傾向になりました。従つて教育も、個人的よりは一層社會的に考へねばならなくなつてまゐりました。デュエー教授は此の點に深く着目して、一面にはフレイベルの教育思想を尊重し、又一面あらゆる教育精神を取り入れ、教育をして社會生活に直接連絡せしめると云ふ事は、幼稚園から大學に到る迄、即ち、すべての教育の共通基本原理なる事を認めたのであります。茲に於てアメリカの教育界に、一新時期を劃する様になつたのです。ところで其のデュエー教授のお弟子のヒル女史や、

及びキルバトリック教授等は、此の考へ方に基いて、社會的教育主義を幼稚園に實現する事に力を盡したのであります。即ち、一般教育の原理なる社會生活を主體とした教育目的を幼稚園の日々の保育の實際に取り入れる事に工夫したのであります。そして、二人とも現に、コロンビアを中心として大に活動して居るのです。そこで、こゝに大に注意すべき一つのことは、アメリカの幼稚園教育なるものは、我國の現今の如く、教育界の一孤島の如きものでなくて大學中學及び小學校と一貫したる連絡を保つて堂々と行はれて居る事實であります。

斯くして其の昔、百餘年前に、創めて主張されたフレイベルの教育理想は、漸く只今アメリカに於て最よく實現されて居る譯です。一體、フレイベルは自分の思想を始めから幼稚園だけに實現しやうとした人ではありません。たゞその時代の教育界の状態、大きく云へば社會の情勢が、いまだフレイベルの思想を教育全體に取り入れる迄に發達してゐなかつたので、止むを得ず一番取り入れ易い幼稚園にもつて行つたといつていゝのでした。彼は恐らく、自分の思想を幼稚園だけにしか實現し得なかつた事を遺憾に思つた事でありませう。彼れに云はせたなら幼稚園に實現されべきものは、小學中學にも應用出来るべきだと思つてゐたに違ひないので

す。

此の如く幼稚園が教育學的にアメリカに於て重大視され、凡ての教育と連絡が取れて居るのを見まして、我國の幼稚園教育と遙かなる距離のある事を痛切に感じられたのであります。吾々には、まだ大きな仕事と責任とが残つて居るのであります。

ドーナー・グローブの幼稚園

すっかり御無沙汰をしました。讀者の方々も編輯の方々も、なにか書いてよこしそうなものだと思つておいでだらうにと思ひながら長い御無沙汰をつゞけてしまひました。そのうちに此の國を去る日も近づいて來ました。歐羅巴へ行つたらといふのも、餘りあてにならないお約束です。と、いらで一つ位おたよりをして置かないと、少々濟まないといふ様な氣もして來ました。(シカゴにて)

此の國へ來てから、幼稚園も大分見せて貰ひました。名に聞いて居たコロンビア大學の幼稚園も、シカゴ大學の幼稚園も、ゆつくりと見せて貰ひました。よく見れば、ためにならないものはありません。こゝを拾ひ、あすこを拾へば、一つとして有益な資料でないものはありません。しかし其の中で、——何んと言ひませうか——私の一番好きなどでも云はせて頂きませうか、兎に角く最も私の心を惹いた幼稚園が一つありました。

シカゴに居た時でした。有名なハリス女史が校長をして居られるナショナル・キンターガー

デン・エンド・エレメンタリー・カレッジを訪ねました。その日の私の目的は保婦科の方の參觀でした。そして、どこを參觀しても何時も感じる様に、自分達が國でして居ることに、まだ足りないところの、いくらもあるのを思つたりしました。此の學校には生徒の實習の爲め幼稚園も勿論ありました。私はそれも見せて貰ひました。

その時、今まで亞米利加で見た幼稚園に就て、どう思ふかといふ様な話が出ました。大きい都會の幼稚園は自然味の餘りに少ないのが遺憾に思へると私は答へました。

それが無理な注文であることは、私もよく知つて居るのです。出来るのをしないのでなく、出来ないから仕方がないのであることもよく分つて居るのです。それでも私の心持は、さう答へざるを得なかつたのです。これは批難ではありません。誰れでもの希望でせうと、私はつけ加へました。私を案内して校内を見せて下さつたヘンミンダウエー女史は黙つてうなづいて居ましたが、若しお暇が出来るのなら、ドーナー・グロップの幼稚園へ行つて見ませんか、あの幼稚園はきつとあなたのお氣に入りますと云ひながら、紹介状を書いて呉れました。私が此の國で一番すきな幼稚園を見出し得たのは實にヘンミンダウエー女史の賜であつたのでした。

た。

x

天氣のいい五月の或る日でした。朝はやく、シカゴのユニオン・デーポーからシカゴ・ブルミントン・エンド・タキシートの線をとりました。汽車は暫くの間、汚いシカゴの裏町を通つて居ましたが、やがて窓の前に、青い野が打ち展けて來ました。野につゞいて丘が見えて來ました。丘を越えて林があらはれて來ました。林の間には小川もありました。私は久し振りの此の田園の景色に、息のつまる様な心持をしながら、窓に近く倚つて、車の外を見つゞけて居ました。野のなだらかな斜面には蒲公英が敷きつめられた様に咲いて居るところもありました。やはらかい丘のうねりに沿ふて、放たれた牛の群の、靜かに草を食みながら歩いて居るところもありました。遠くつゞく林の末は霞む様に煙つて、白い五月の空に連るのも見えました。汽車の進むにつれて、林の陰にかくれては又あらはれる小川の流れの、ゆるやかに岸の草を浸して居るのも見えました。沿線の停車場の名も、そのところ／＼の趣きにふさわしく呼ばれて居ました。野、丘、谷、小川、森、といふ様な語がそれ／＼につけてありました。こんなことも

時には非常に嬉しいものです。一時間ばかりにして、私はドーナー・グロープの小さい停車場に著きました。

ドーナー・グロープは極く小さい田舎町です。停車場通りに少し許り町らしい飾り窓の店並がありますが、それも數丁とはつきましますまい。人通りのゆつくりとした一筋町で、兩側の家の後ろは、直ぐ森になつて居るといつたところです。鐵道の踏み切りを越すと、往來の店さきに、牛乳のあき罐を荷馬車に積んで、その御者臺の上に、粗い辨慶格子の服を着た若い血色のいゝ娘が、馬の手綱をひかへながら、お婆さんと香氣そうに話をして居るといつたところです。しかし、貧しい卑しい町ではありません。後で聞くと、古い農家の多い町で、外來移民の少ない、昔から人氣のいゝ、健實な土地だといふことです。私は寫眞のフィルムを買ふ序に、ある藥屋で、此の近所に幼稚園があるかと聞いて見ました。私はこんな曖昧の間ひ方では、多分わかるまいと思つて居たのでした。すると愛相のいゝ番頭さんが、幼稚園といへばあの幼稚園のことさよと云つた風に、直ぐ其の道を教へて呉れました。それから、丁度店さきで徐ろに煙管をくゆらして居た隠居さんらしい人は、私といつしよにわざ／＼戸の外まで出て、此の通り

を斯う行つて、あの白い家の角を右へ曲つてと、太い指で指さしながら、親切に教へて呉れました。

x

本通りから、教へられた運送屋の角を右に曲ると、そこはもう道の兩側が森になつて居ました。その曲り角の標柱に森通りとあるのもうなづかれました。

森の中には、廣い間隔をおいて、まばらに家がありました。その中の一軒。淡褐色の煉瓦建で、落ちついた品のいゝ家、私はそれを訪ねて見ました。森の中の小徑傳ひ、門もなければ、もとより標札もありません。これに相違ないとは思ひながらも、若し間違つたらといふ氣づかひもあつて、私はそつと戸口の前に立つて見ました。見まわして見ても、呼び鈴がありません。私は裏の方へでも廻つて見ようかと思つて居ると、中から朗かな子供の笑ひ聲が聞えて来ました。私は、もう安心して、ドアを押しました。丁度そこへ、横の室から一人の若い先生らしい人が出て來ました。私は紹介狀に自分の名刺を添へて、來意を通じて貰ふ様に頼みました。

その若い先生が廊下を奥へゆくと、少しして數人の男の子と女の子とが、にこ／＼しながら私の前へ來ました。私はもう自分の幼稚園へでも來た様な感じがしました。そしてその子供らの後ろに、見るからに眞摯な、人なつこしいミス・マルセを見ました時、すつかり心やすい心持になつて仕舞ひました。

ミス・マルセは私の手を握つて、ほんとうに遠方から、よくまあ訪ねて來て下さいましたと、それも口數多くいはずに、もつと眞實な笑顔で迎へて呉れました。その心おきない態度には、人が人を迎へる眞卒な親しみといふものが充ちて居ました。多分此の幼稚園は、參觀者といふものにスポイルされて居ないのでせう。否、いくら參觀者が多くあつても、一人々々を心から客として迎へ得る、やわらかな素樸な人間性が、此の人の裡に洩れない程に豊かにあるのでせう。私はその時こんなことを考へたではありません、たゞ後から思ひ出して見て、まだ何も見せて貰はないでも、此の第一の印象が、此の幼稚園を私の好きな幼稚園にするのに充分であつたと思ふのです。私は自然味のある幼稚園を求めて來て、加ふるに人間味のある幼稚園を興へられたのでした。

ミス・マルセは、そこに居る子供達に私を紹介しました。

軽くかどむ様にしては、此の方はね、遠い日本からいらしたお客さまですよと、一人々々に丁寧に紹介して呉れました。子供達にはこやかに私を見て、銘々に其の可愛らしい手を私に握らせて呉れました。あの、しつとりした、落ついた、幅の餘り廣くない、天井の餘り高くない、光りの餘り明る過ぎない、人睦まじい廊下のさまが、今もなつかしい心持を誘ひます。そこには人の子を集めて訓練して居るといふ様な、よどんだ嘆ひは少しもありません。幼兒等を集めて、強ゐて遊ばせて居るといふ様な、わざとらしさの交る騒々しさもありません。私は、靜かに其の廊下を歩きながら、幼稚園に居て、幼稚園を忘れて仕舞つて居ました。

其の案内の仕方が、之れまた懇切と而して自然を極めたものでした。此の人は、ほどのよさといふものを一分も缺きませんが、少しでも超えてゆくことがありません。

此の人には形式といふものは、どこにもありません。それで居て、おのづからの心のこまかさに、ものゝ順序がちやんと立つて居ます。ゆき届いて居ながら、人のさきにゆきません。私を案内するの私について來るのか分らない様に歩きながら、何が私が意をとめて、立ちと

まる様なことがあると、そつと暫く自由に放して置きました。そして程のよい時にまた私の傍へ来ては、靜かに私の問ひに答へて呉れました。私は參觀に来て參觀に来て居ることを忘れませんでした。

x

建築にも非常に細かい意の用ゐられてあるのを見ました。外から見た感じからいへば、普通の住宅と多く變りません。それも極く地味に、入口なども、わざと正面でなく、少し左よりの張り出しの傍に、葉の高い老樹の蔭に倚り添うやうについて居ました。土地の勻配を上手に使つて、玄関から右が、氣のつかない様に低くなつて居ます。そこに、此の家の主要部が、出入參差、角の多い面白い設計を見せて居ます。

一層趣きのあるのは、内部の間取りです。玄関から廊下を奥へゆくこ、中ほど右側に、上へ四五段下へ四五段の低い階段があります。上と下との廣間へ導かれて居るのです。私はこの階段のつけ方を、いひあらはし様もなく面白く思ひました。廊下を中二階風の位置に置いたところに、變つた味が出て居たのです。その階段のくちがひ方も何となく謎めいて居ります。

可愛らしい子供の足でとん／＼と上から降りて来て、くるりと後ろを見せて、そのまゝとん／＼と下へ消えてゆく軽い足音のあとを追ふて、私は思はず、ほゝえますには居られませんでした。此の階段で導かれて居る上の方が幼稚園で、下の方が初等科（小學一年と二年級級）です。先づ上へゆきます。

階段のつき當りは、一寸した小さい溜りになつて居ます。その正面には例のトイブネル版の大きい野の景色の繪が懸けてありました。その前に脚の高い小卓を置いて、ホワイトエリ白櫻の花が、陶器の花壺に投げ入れに活けてありました。右と左とにドアが開きます。ドアの内は廣い室で、天井と窓かけとは稍々明るい淡茶色で、全體の色調が、如何にも、おつとり落ちついて居ます。私は入口に立つたまゝ暫くぢつと見入つて居ました。そこに置いてある小さいテーブルや椅子の色がすべて室と同じ調子の色をもつて居ることは言ふまでもありません。左右の入口の間一ぱいに、大きいピアノが置いてあります。

x

此の廣い室が八角の室であることは、暫くしてから氣がつかまりました。氣がついて見ると、私
は一種の喜びにたえませんでした。遊戯室を中央に大きくとつて、それへ放射状に數個の小
い部屋をつけるといふ設計は私の長く机の上で描いて居た考へでした。後、岡山市の幼稚園
で、此の考へに似たものを見出した時に、私の設計が實現出来るものだといふことの保證せら
れて居るのを喜んだのでした。それをまたこゝで見ようとは思ひもかけないことでした。私は
自分の此の考へを、一度も自分で實現して見たことはありません。こゝに私の考へが一層よき
ものになつて實現せられて居るのです。

八角の室は、取り圍む様に四つの窓をもつて居ます。その窓は二尺ばかり張り出されて、高
い一ぱいの硝子障子になつて居ます。私は、わざと硝子障子といひます。日本流の硝子戸で
なく、アメリカ流の一枚硝子でなく、趣の深い細かい棧になつて居るのです。私は此の硝子障
子を前に、日のさし込んで居る明るい張り出した腰板の上で、人形の着物にアイロンをかけて
居た、女の子の後姿が今も目に浮んで來ます。

四つの窓を挟んだ四つの面は、ピアノの處に立つて見て居るとして、正面がストーブ、右と左

とが長四角の室になつて居ます。その室は、いづれも三方を明るい硝子障子にかこまれて居ま
す。右の室には、その日大形の牀上積木で家が出来て居ました。左の室には、中の窓一面に横
廣い大きい水盤を据えてありました。小さい噴水が水面から一寸ほどの高さに噴いて居まし
た。底には、水草が青い葉を沈めて居ました。その他、器用な木片の舟が一つ、岸にくつゝい
て、もやつて居ました。

中央の廣い室には、窓に近く小さい机が一つ、或は二つ、或は三つ置いてありました。椅子
には一つ一つ椅子蒲團が敷いてあるのが、濠い、暖い淡褐色の、中に東洋風の丸い模様のある
麻織物で包んでありました。私は此の椅子蒲團を見て、思はず、いゝですなあと言ひました。
ミス、マルセは黙つて笑ひながら、自分でも軽く、其の蒲團にさわつて見たりしました。ス
トープは古風な、造りつけの大きな爐です。傍に、くすんだ大きなふいごなどが懸けてありま
した。素より。全體の室温は他の設備でとる様になつて居るのですが、私は、雪が此の森の家
を埋めて居る日に、此のストーブに燃える明るい火を想像して見たりしました。

ストーブの兩側がドアになつて居て、その外が子供の細工場になつて居ます。ストーブの

後といふことが、如何にも細工場らしい心持を伴ひます。こゝだけは木切れ、鋸屑で程よくちらかつて居る中に、いろ／＼の大工道具などが置いてありました。下の室も、輪廓は大體之と同じです。

x

其の日は金曜日でした。一週一度づゝ、幼稚園の子供と、初等科の子供と、いつしよに集つて遊ぶことにしてゐる日でした。案内されて下の間にはいつて見ると、三十人程の子供が、ラツグを敷いた牀の上に可愛らしいあぐらをかいて、坐つて居ました。前の方がずつとあいて居て、小さい椅子が不規則に列べてありました。やがて、上の廣間から、例の階段を幼稚園の子供が降りて來ました。初等科の小さい兄さん、小さい姉さん連が、にこ／＼しながら拍手をして迎へました。やがて、先生がピアノを弾きました。私には何の曲とも知らない曲でした。多分名のある名曲なのでせう。藝術味の高いものでした。

子供達も、酔ふ様にして聽いて居ました。その曲が終つてから、子供達の可愛らしい唱歌や、遊戯が始まりました。第一に數人の樂隊がありましてから、いろ／＼のエンターテイメント

の中には、幼稚園の女の子が、自分で縫つて來た人形の蒲團を小さな手に擴げて見せたりしました。初等科の或る男の子は、兄さんらしく手を半ズボンポケットに入れたりして、自作のお話をしました。

幼稚園だけの合唱もありました。初等科だけの合唱もありました。その時には、互に喝采しあふのを忘れませんでした。其の日丁度、學校の方の先生がお休みとかで、こゝの卒業生の小學三年の女の子が遊びに來て居ましたが、上手なピアノを弾いてきかせました。皆は此の先輩の好意に對しても熱心に喝采しました。初等科の子供のインヂャン、ダンスには東洋のお客さん、すつかり感心させられて仕舞ひました。おしまひに、羊飼ひの簡単なメロドラマがありました。多勢の子供がぞろ／＼／＼／＼旬ひながら出て來て、羊の聲を眞似たりしました。二人の羊飼が枯枝をもつて、其の間を歩いたり、軽く羊を追つたりしました。可愛い羊達は、時々人間の子供の様な聲を出して、笑つたりしました。私は我國の幼稚園で時々見る、幼兒演藝會には、少しも興味を持つて居ないものです。それは、どうかすると子供の自然以上のものになり易いからです。しかし、この日の此のあそびには、少しも、そういうところはありませんで

した。一週の終りの金曜日の朝をかうして皆で楽しく遊ぶといふ、その團樂の心持ち以上に少しのわざとらしい處もありませんでした。私といふ外國人の居ることも、少しも皆を意識的にして居ません。私のすぐ前に兩足を投げ出して坐つて居た女の子が、何か可笑しいことがある度に、私をふりかへつて見て、小指に細い指輪をした小さい左手で頬をおさへながら、ミソ齒を出して笑ふのが、如何にも面白くてたまらないといふ風でした。

x

此の團樂が終ると、ミス・マルセは私をつれて外へ出ました。

初等科の細工場の後から、屋根なしアスファルト敷きの小さいベランダを通つて地面へ降りました。そこはたゞ森の中でした。森の中といふ外に、ほんとうに何もありません。お庭では勿論なし、遊園といった様のもでもありません。地は自然の高低のまゝに、草は自然に茂れるまゝに、何一つ造つたところがありません。私は、田舎家の裏とでもいふ氣がしました。だら／＼と低くなつて、細い溝川に近い處に、鶏小屋がありました。その少し離れた處に屋根の低い豚小舎がありました。

その日は豚は居ませんでした。内部はきれいに整頓せられて、子供用の小さい鍬や鋤が釘にかけてありました。子供達は朝來ると直ぐ、或るものはお部屋の中を片づけ、或るものは此の小舎へ来て、餌の世話をしたりすることになつて居るといふ話でした。家の真裏の邊に、プラシコと砂場とがありました。幼稚園の遊園らしいとでもいふものは、此の二つだけでした。しかも私には、その傍に、今を盛りと咲き亂れて居る白櫻の大木と、垣も塀もない廣い草地を隣りの家の方までつゞく曲りくねつた小徑の方がどの位目をひいたかも知れません。木立の中には野梅も咲いて居ました。

私達は、その裏から廊下へ上りました。幼稚園の子供が十人餘り、コート、ルームで靴をはきかへて居ました。そこには小さい籠だの箆の様なものも藏つてありました。草摘みに行くのだといふことでした。

廣間の方へ行つて見ると、残りの子供達がしんとして遊んで居ました。窓に近いテーブルでは數人の子供が、うすねづみ色の畫用紙に、太といクレイヨンで繪を書いて居ました。ある机には繪本が澤山散らかつて居る中に、一人で何か讀んで居る子がいました。ある机では、若

い先生と差し向ひで二人の女の子が頻りに鉄を使つたりして居ました。その他、小さい方の室にも、こゝに一かたまり、あすこに一とかたまり、小さい自然の分園をつくつて居るのでした。自由に話もして居ます。自由に笑つても居ます。それで居て、少しのさわつたところがありません。時々、室の中を急ぎ足に歩いてゆく子がありますが、厚ラッグの上にコトンとも音がたちません。ある机には高い花瓶に、白林檎の花が房々と活けてありました。ある机には硝子の水鉢に、濃い紫の莖と、くつきり抜ける様に白い杏の花とが浮べてありました。子供はその側を軽やかにゆき來して居ました。

私は此の日幼稚園と初等科とで觀た一々の教育に就て、細かく書いた方がいゝのかも知れません。まして一つ一つ書くだけの價値は充分にあること許りでした、殊に初等科の方のことなどは、いくら書いても盡きない問題があります。しかし、それには長い理論もつけなければなりません。それは今の私の時間のゆるさないことです。

今はたゞ、幼稚園と小學一、二年級とを一つにして全く同じ空氣の中で教育して居るといふ

ことだけで、賢明な皆さんの判断を乞ふて置きませう。尤も之れは此國では新らしいといふ程のことでもありません。私達も國に居る時から考へもし説きもしたことです。たゞ、こゝでは、それが如何にも自然に、且つ徹底的に行はれて居ます。私が特に此の幼稚園を記憶するには、此の點も大に加はつて居るのです。お話が前後する様ですが、此の幼稚園は元來、幼稚園普及協キョウイカイケン會で建て、居るのです。そしてそのエキステンションといふ意味は、初めは幼稚園を世の中に普及させるといふことゝろでしたが、今は寧ろ、小學校初級の教育に幼稚園の原理と精神とを延長させるといふことにあるのです。此の話が出た時に、穩かなミス・マルセの口調にも、強い主張の閃きがありました。私にとつても豫てからの主張です。しかし、それは又別に論すべき日がありませう。今日はやつぱり、自然と人間とのお話をもう少しつゞけさせて置きませう。

私は初等科の細工場の傍にある、先生の書棚の中に、教育書や博物學の書物の間にまちへて、トロリーの四季日記集のあるのを見つけました。そして、丁度そこへ來合はせたミス・マルセに向つて、ありますねと、指さして見せました。ミス・マルセは何ですかといふ様に硝子戸

に顔を寄せて見て、例の言葉少なに、いゝ本ですなと言ひました。これは私の最も好きな本の一つです。私は早くコンコードに行つて、トロリーの愛した自然が見度いと思つて居ます。しかし、今日は、長く自然に餓えて居た私の心が汽車の沿道からして、すっかり充たされました。こゝに来てからは、此の森の景色が、どの位私を喜ばせたか分りません。こゝにいふ處に毎日おらしつて、あなたは、ほんとうに幸福です。ねえミス・マルセ、あなたはそうお思ひになりませんか。——斯う流暢にいつたかどうか分りませんが、何しろ今朝から久し振りの自然に張りつめて居る私の心は、トロリー集を見るに至つて抑へきれなくなつたものと見えます。ミス・マルセは、此の先生若いなと思つたか、話せるなと思つたか、一寸うなづいて見せて、ほんとうに、自然はよう御座いますねと、矢張り言葉少なに答へました。

子供達が歸つて行つた後でした。私はお暇をしようとして居ると、ミス・マルセは、まあ、何も御座いませんが、皆で御いっしょに、お晝を頂きます。その前に、お好きな森の方を少し歩いて來ませう。お外套はこちらでしたねと言ひながら、自分も奥へ行つて無造作にコートを着て先きに立ちました。

西洋の婦人の年齢をいふのは失禮ださうですが、此の人は、お母さんとすれば中學上級位の息子さんのあつていゝ年輩です。氣持ちのあかぬけした、容子に少しの氣どつたところもない、叔母さんくした人です。さつさと森の間の小徑を歩きながら、時々立ちとまつては、私の間ひに答へて、草や木の名を教へて呉れました。森の少し開けた處には、小高い丘につゞく廣い牧場もありました。森が再び深くなつて、道の少し濕つた低いところには、水際の見えない平な池がありました。向ふは次第に高い斜面になつて、木深く森がつゞいて居ました。池の傍には、うす桃色のスプリングビューチーが一面に咲いて居ました。その上には梢越しの日光が、いろ／＼の陰影を投げて居ました。私はよくこの邊まで一人で散歩に参りますといひながら、夏は夏、秋は秋でそれ／＼かはつた趣きのある話も出ました。殊に冬の雪が一面に森も池も埋めて居る時が好きですといふ様の話も出ました。私は此の叔母さんが、どの位詩を解して居るか知りません。殊に、その言葉使ひは、少しも所謂文學的ではありません。しかも森の中を斯うして、いっしょに歩きながら、此の人の心には、詩が何も特別のものとして離れて居ない程に、詩に富んで居るのではないかといふ様な氣がしました。

歸つて來ますと、若い先生達が玄關に迎へて呉れました。そして、子供の部屋の窓に近く、
幼児の机を置いて、雪白なテーブルクロスをかけた二ツの食卓が出来てゐました。一人の先
生が、こゝは子供の家ですからと云ひながら、小さい椅子に私の席を與へて呉れました。同じ
食卓についたのは、私を入れて五人でした。私の向ひに坐つた初等科の主任の方が、私によく
話かけて呉れましたが、他の若い先生方は餘り多く口数をきゝません。私はセロリを取りなが
ら、ふと窓の外を見ると、可愛いゝ女の子が、一人で、森の中を幼稚園の方へ歩いて來て居ま
した。あの子とは問ふと、午後の組に來るのですと、主任さんが答へて呉れました。あの子は
此の室にはいると、きつと、びつくりしますよ。いつも見なれない熊が來て御飯をたべて居ま
すから、と云ひますと、別の食卓の人達まで、聲を立てゝ笑ひました。一人の若い先生は、ゴ
ールデン・ヘヤーが驚くであらうと口輕に言つて、又笑つたりしました。それから食卓が賑かに
なりました。私も冗談がいひ易くなりました。私は十年ばかり前に、森の幼稚園といふ小篇を
書いたことがあります。それは私の架空の幼稚園でしたが、今私はこの幼稚園に、同じく森の
幼稚園といふ名をつけることに、さつきから一人できめて居ますと、言ひましたら、ほんとに

ね、と云つて皆も笑ひました。

食後、私は各室の額を見て歩いて居ますと、ミス・マルセが、之れから子供のテストをします
から一寸失禮します。何でしたら御覽下さつても差支へありませんといふことでしたから、其
の部屋へ行つて見ました。テストはターマンのインテリゼントテストを使つてゐました。それ
に別に變りはありませんが、此の部屋の空氣は、心理學的テストまでも、頗る詩味を帯びたも
のにして見せました。實驗者は、あつさりした白い練絹の服の上に、藤色の絹絲で編んだ薄い
スエーターを重ねて、黒い紐で銀の讀書眼鏡を頸からさげて居ます。其の前で机を挟んで腰を
かけて居る小さい被験者は、鰻茶の服に、赤い格子縞のネクタイをして、房々したブロンズの
髪が耳のあたりに形のいゝ渦をまいて居ます。實驗者は紫と黄とに塗りわけた短い鉛筆の、小
さい茶のリボンのくゝりつけてあるのを手にしながら、型の如く順々に問ふては、ちよい／＼
と書きつけて居ます。被験者は、その利口そうな横顔に、先手が變なことを、次から次へお聞
きになるのが可笑しくてたまらんといふ様な口もとを見せて、はき／＼と答へてゐます。室は

ミス・マルセの自分の部屋と見えます。大きなどつしりしたデスクが部屋の一方を占めて居て、その上には小さい藤の手籠や、銅製の立て曆などが置いてある中に、たつた一輪さしたチューリップが、あの愛くるしい色を見せて居ました。壁際に寄せて置かれた本立てには四五冊の本が格好よく列んである間に、去年出たドリンクウオーターの新しい詩集もありました。ドリンクウオーターは此國の現代抒情詩人の一人で、人間味の多い新らしい詩を書く人です。私には其の淡紅色の紙表紙の背にあつさりポエムスと書いてある瀟洒な装幀を見ながら、はゝあ、此の室の主人は、果してこういふものを愛讀して居る人であつたかと思つたりしました。幼稚園は人ですね。つまり先生の人格ですね。

版權所有



大正十五年七月二十五日印刷
 大正十五年八月十日發行
 著者 倉橋惣三
 發行所 東京市日本橋區大傳馬町二・二六
 印刷者 内田作藏

附草奧雜園幼稚
 定價圓五十錢

發行所
 内田老鶴園
 東京市日本橋區大傳馬町二丁目
 振替東京一四六番
 電話花一三五番

(秀英合整版印刷)

271
120

終

